

# 第15回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会

2020年11月27日(金) 13:00～15:00

- ◆開始時刻(13:00)までお待ちください。
- ◆マイクやビデオテストご希望の方は、ミュートを解除し事務局までお声がけ下さい。
- ◆接続不良等ございましたら、下記の緊急連絡先までご連絡ください。

03-3547-5201 にかけていただき、

PHS **7341** もしくは **2804** (演者の方や7341が繋がらない場合におかけください)

## 〈参加時の注意事項〉

- ◆発言時以外はマイクはミュートでお願いいたします。
- ◆ディスカッション時、および発言時はビデオをオンにしてください。その他の時間はオフで構いません。
- ◆質疑応答は原則口頭でご発言ください。口頭での質問が難しくチャットでの質問を希望される場合は、送信先を必ず「全員」にし、お送りください。
- ◆挙手機能は使用禁止です。(アプリ参加とブラウザ参加でそれぞれの挙手しか見えない現象が起こるため)

# 第15回 都道府県がん診療連携拠点病院

## 連絡協議会

# 情報提供・相談支援部会

2020年11月27日(金) 13:00～15:00

オンライン会議システムを利用

# 本日の内容

## 1. 開会のあいさつ

## 2. 本日の概要

## 3. コロナ禍における都道府県がん診療連携拠点病院の活動やがん相談支援センターの運営に関して

- 1) 全国のがん相談支援センターから寄せられている困難や傾向、その対処法について
- 2) 取り組み紹介
  - (1) 患者サロンの運営に関して
    - オンラインを利用した患者サロンについて
    - 集合型患者サロンについて
  - (2) オンラインを利用した研修の継続について
  - (3) 増加した相談内容やその対応について
- 3) 質疑応答およびディスカッション

# 本日の内容（つづき）

4. 2021年度の相談員研修の開催・実施方法について
5. 患者体験調査からの報告
6. 情報コンテンツ作成・提供・活用、査読に関する協力依頼
7. 国立がん研究センター認定事業、他について
8. その他
  - オブザーバーからのコメント
  - 連絡事項
9. 閉会のあいさつ

# 事前配信資料について

■本日ご参加が難しいため厚生労働省健康局 がん・疾病対策課にご講演いただく予定であった「第3期がん対策推進基本計画 中間評価に関する動向について」をビデオ配信しています。

・配信期間：

2020年11月24日～2021年3月31日

・ 部会委員限定ページよりご覧いただけます

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/liaison\\_council/bukai/data/bukai\\_shiryo.html](https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/bukai/data/bukai_shiryo.html)

この講演についてのご質問等ございましたら、**11月30日（月）まで**に事務局メールアドレス<joho\_sodan\_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp>までご連絡ください。取りまとめの上、厚労省に照会いたします。

# 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会設置要領

平成24年11月27日より施行

(設置)

第1条 拠点病院で実施されている情報提供および相談支援体制の機能強化と質的な向上を図ることを目的とする。また、各都道府県や地域単位での取り組みを支援するため、都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会の下部機関として、情報提供・相談支援部会（以下「部会」という。）を設置する。

(検討事項)

第2条 部会は、次の事項について、情報を共有・検討する。

- (1) 都道府県、施設単位で行われている情報提供・相談支援の取り組みに関する現状把握と分析、情報共有に関すること。
- (2) 情報提供や相談支援体制の機能強化や質的向上を果たす上で必要となる全国、地域レベルで整備すべき体制とサポート要件の整理
- (3) 現場のみでは解決が難しい施策・制度面の改善等の必要事項の整理と（連絡協議会を通じて発信することを想定した）提言に向けた素案の作成

# 本日の内容

## 1. 開会のあいさつ

## 2. 本日の概要

## 3. コロナ禍における都道府県がん診療連携拠点病院の活動やがん相談支援センターの運営に関して

1) 全国のがん相談支援センターから寄せられている困難や傾向、その対処法について

2) 取り組み紹介

(1) 患者サロンの運営に関して

-オンラインを利用した患者サロンについて

-集合型患者サロンについて

(2) オンラインを利用した研修の継続について

(3) 増加した相談内容やその対応について

3) 質疑応答およびディスカッション

全国のがん相談支援センターから寄せられている  
困難や傾向、その対処法について  
集計結果（抜粋）



# 調査目的と概要

コロナ禍におけるがん相談支援センターの現状について、特に関心が高いと思われる以下の3点について改めて情報共有を依頼した。

- (1) 患者サロンなど、患者、家族、市民向けイベントに関して
- (2) 都道府県部会の活動（部会の開催や研修）に関して
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大を受けて増加した相談内容や対応に困難を感じる相談内容に関して

## 【調査方法】

都道府県がん診療連携拠点病院メーリングリスト（kyoten-cisc）にて、WEBアンケートの入力もしくはご返信を依頼し、2020年9月4日（金）～9月21日（月）にかけて実施した。

## 【回答施設数】

68施設

# (患者サロン等) 患者、家族、市民向けイベントに関して、難しさや課題と感じている点、うまくいっている点や他院と共有したい情報について

- ・ 難しさや課題を感じている点 (回答施設数:64施設)

分類、回答例 (一部抜粋)	回答数
<b>1:基準に当てはまる状況にない、基準を決めかねている</b> -現在病院の指針に準じると患者サロンの開催は困難である。 -コロナ予防に準じた環境を整え再開したいと考えているが、病院側からの許可が出ない。 -入院患者への面会禁止も継続している状況のため、患者サロンの再開の見通しはたっていない。基準を決めるのが難しい。	27
<b>2:オンライン開催にあたっての難しさがある</b> -参加者の年齢などを考慮するとオンライン開催は難しい。 -オンラインで実施するための器材不足や準備に費やす費用・時間の捻出が難しい。 -個人情報の保護など未知の領域が多い。 -参加者から対面を重視するニーズがあり、オンライン開催に至っていない。	31
<b>3:再開の目途が立っていない</b> -現在、患者サロンや市民向けのイベントは当面中止している。	20
<b>4:その他</b> -制限つきで再開したが、参加者が少ない。 -人数制限や申込制などになり気軽さに欠ける。 -患者が感染を懸念し参加しない。	38
のべ回答数	116

・うまくいっている点や他院と共有したい点（回答施設数:40施設）

分類、回答例（一部抜粋）	回答数
<p><b>1:オンライン開催をしている、予定している</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-院内管理者より活動継続のためWebなどへの切り替えを積極的に準備するようこの助言を受け、早めに計画を立てて準備することができた。</li> <li>-事務部門や医療情報部門からアイデアや機材、技術的側面のバックアップが得られそうである。</li> <li>-サロンの一つである「AYA世代交流会」について、オンラインでの開催を7月より始めた。</li> </ul>	14
<p><b>2:対面開催時工夫している、工夫を検討している</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-患者サロンの再開はできていないが、院内のICTチームへの指導を依頼し現行の場所での開催できる環境の条件（人数や時間）などを確認した。</li> <li>-行動要請基準を感染管理部などが出していただき、周知を図れたのはよかった。一定の判断基準が保たれた。</li> <li>-開催前にセンター長と協議し事前申込制、参加人数の制限（10名程度）、開催時間の制限（1時間程度）、広い会場の予約、定期的な換気、室内消毒、ソーシャルディスタンスの確保、入室前に手指消毒・体温測定等を職員が実施することを前提としている。</li> </ul>	13
<p><b>3:その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-サロンは中止中であるが、講師の方や世話人とはメールやオンラインで連絡を取り合いネットワークを構築している。</li> <li>-がんヨガ、アロマ、アピアランスケア等については、セルフケアができるように、YouTubeでの発信を検討中。</li> </ul>	21
のべ回答数	48

# 都道府県部会の活動（部会の開催や研修）に関して、難しさや課題と感じている点、うまくいっている点や他院と共有したい情報について

- ・ 難しさや課題を感じている点（回答施設数：38施設）

分類、回答例（一部抜粋）	回答数
<b>1:開催が止まっている</b> -親会の開催自体が未定となったことから患者相談部会の開催も未定となった。 -部会活動は、新年度になって一度も活動されていない。	8
<b>2:オンライン開催にあたっての苦労がある</b> -通信環境や情報基盤のセキュリティなどの問題から、ZOOMミーティング等の導入が進んでいない施設も多く病院間で差がある。 -対面より討議がしにくく、課題解決のスピードが落ちているように感じる。 -オンラインでの研修も増えてきているが、グループワークがスムーズにできるのかなどの課題がある。	36
<b>3:その他</b> -部会はメールや書面開催となっており、活動に時間を要している。 -コロナ禍において相談支援センターの質の担保をどのように考えるかが課題である。（PDCAチェックリストの評価も含め） -院内でのコロナ対策（検温、その他）の業務があり、部会活動への時間が取りにくい。	14
のべ回答数	58

• うまくいっている点や他院と共有したい点（回答施設数:35施設）

分類、回答例（一部抜粋）	回答数
<p><b>1:オンラインで開催している、開催を予定している。</b>            - 会場準備や移動の時間がなく、時間調整が容易で、通常業務にも戻りやすい。参加者の表情がよく見え、問いかけしやすい。            - 限られた時間内で円滑に議論が行えるよう画面上で意思表示がしやすくなる工夫をしたり、あらかじめ少人数で 意見聴取した。</p>	30
<p><b>2:代替手段でうまくいっている</b>            -メーリングリストを活用した情報共有をしている。</p>	6
<p><b>3:その他</b>            -緩和ケア研修会は集合開催を必須としており、安全に開催できる方法を模索している。</p>	6
のべ回答数	42

# 増加した相談内容や対応に困難を感じる相談内容、 全国の相談支援センターで共有しておくという情報について

- ・ 難しさや課題を感じている点（回答施設数:58施設）

分類、回答例（一部抜粋）	回答数
<b>1:面会制限に関連した影響</b> -面会制限のため、患者の様子を把握できないことや主治医とコミュニケーションがとれないことによる不安の訴えがある。 -患者本人の病状を家族が理解できていないことがある。 -転院先を検討するにあたって、面会を基準に判断される方もいた。	38
<b>2:療養先の選択肢の変化</b> -緩和ケア病棟でも家族面会が制限されているので、入院を躊躇されたり、在宅療養を選択される家族の相談がある。 -外来通院をされているが入院を必要とされる状況にある方々から、在宅緩和ケアの相談を受けることが増えた。	10
<b>3:治療の遅れ・治療選択肢の制限</b> -がん遺伝子パネル検査後の対応は、他地域のハイボリュームセンターに頼らざるを得ないが、コロナの影響で治療参加をあきらめざるを得ない 症例を経験した。 -新型コロナウイルス感染に対する不安が強く、受診を拒んでしまい定期受診・検査を受けない。受診の差し控えが長期化してしまう事例がある。 -県外へのセカンドオピニオンがしにくくなっており、あきらめる患者家族も多い。	29
<b>4:生活全般の圧迫</b> -これまでのような外出ができず、ストレス発散ができないことでの精神的な負担となっている。 -新型コロナウイルス感染症に影響による失業や収入減による経済的な相談がある。	27
<b>5:その他</b> -首都圏や県外在住の方がキーパーソンの場合、退院支援や療養問題に関する支援に停滞が生じている。 -ウィッグの試着など体験が必要な相談への対応が困難	18
のべ回答数	122

・ うまくいっている点や他院と共有したい点（回答施設数:22施設）

分類、回答例（一部抜粋）	回答数
<p><b>1:オンラインを活用している、活用を検討している</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-家族が感染多発地域にいたため、オンラインでの病状説明や退院前カンファレンスを行った。</li> <li>-オンラインでのセカンドオピニオン実施の検討を始めている。</li> <li>-各病棟ラウンジにWifi整備され、スマホを持たない患者さんでも、テレビ電話をしていただけるようになった。</li> </ul>	7
<p><b>2:電話、対面相談を工夫している</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-可能な限り、電話で相談対応している。</li> <li>-マスク着用、手指消毒励行、環境整備（比較的広いサロンスペースを使用、アクリル板の設置、了承を得てドアを開放、継続的な換気、こまめな拭き掃除など）感染予防策の徹底。</li> </ul>	12
<p><b>3:代替手段を活用している</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-冊子を感染予防のため撤去した。その代わりにWebでの情報収集をしてもらえるようにQRコードの読み取りや各情報サイトの案内が載っているチラシをラミネート加工して掲示している。</li> <li>-入院患者への荷物受け渡しや面会条件、外部業者の立ち入り制限など、頻繁に変わる情報を電子カルテの掲示板機能を活用して常に共有し、相談対応に生かしている。</li> </ul>	3
<p><b>4:その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-仕事をリモートでしやすくなったことで治療と就労の両立がしやすくなっているケースもある。</li> <li>-家族の付き添いや面会状況等について医療機関の情報を退院支援職員と情報共有し最新情報を把握するようにしている。</li> <li>-ウィッグは除菌スプレーで対応している。またメーカーに、消毒法を確認し定期的な洗浄などの手入れを依頼した。</li> </ul>	12
<p>のべ回答数</p>	34

# 本日の内容

## 1. 開会のあいさつ

## 2. 本日の概要

## 3. コロナ禍における都道府県がん診療連携拠点病院の活動やがん相談支援センターの運営に関して

1) 全国のがん相談支援センターから寄せられている困難や傾向、その対処法について

### 2) 取り組み紹介

#### (1) 患者サロンの運営に関して

-オンラインを利用した患者サロンについて

-集合型患者サロンについて

(2) オンラインを利用した研修の継続について

(3) 増加した相談内容やその対応について

### 3) 質疑応答およびディスカッション





# オンラインによる 患者サロンの開催について



静岡県立静岡がんセンター  
疾病管理センター よろず相談  
医療ソーシャルワーカー 高田由香



# ナイトサロン

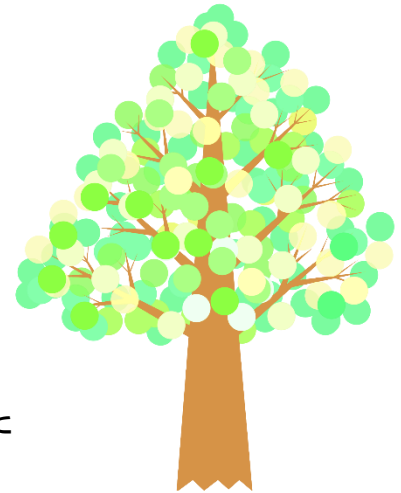
(通称: ライフ・サポート・サークル)

- 開催日時: 月1回 第1金曜日 19:00~20:30  
(2014年6月から開催、計70回)
- 参加者: 就労支援でかかわった患者さんが中心  
(30歳代~60歳代)
- 患者からの要望がZoom開催のきっかけ(3月~中止)
- オンライン開催までの流れ(参加者に対して...)
  - 9/3 オンライン開催の提案およびZoom使用環境の確認  
(個別に設定方法のサポートをやり取り)
  - 10/2 メール配信(10/9開催告知)
  - 10/6 ミーティングルーム情報配信(URL、ID、パスコード)
  - **10/9 オンライン開催**(参加者9名、スタッフ4名)
  - 10/22 メール配信(11/6開催告知、URL、ID、パスコード)
  - 11/5 リマインド(URL、ID、パスコード)
  - **11/6 オンライン開催**(参加者6名、スタッフ2名)



# オンライン開催について

- **準備段階での配慮**
  - オンライン開催の病院としての承認
  - 有料アカウントの取得（個人情報への配慮）
  - 備品の整備（インカムの購入）
  - 個々のメンバーへの支援（意向確認、環境設定等）
  - Zoomホスト役割の習得
  - 運営方法の確認（ホスト役、進行役）
- **メリット**
  - 自宅から参加できる（くつろいで参加でき体も楽だった）
  - 遠方でも参加できる（わざわざ出かけなくてもいい）
  - 顔が見えて、繋がっている実感がある
  - 顔出ししなくても、音声だけで参加させてもらえた
  - 近況報告が聞けて、考えたり感じるがあった
  - 参加の自由度が高い（入退室、発言、顔出しなど）
- **デメリット**
  - 自分から発言したいときはどうしたらいいかわからなかった
  - 共感を伝えあうことが難しかった
  - 画面表示の操作が分からず、参加者の顔が見れなかった
- **改善策**
  - 最初に操作方法の確認や、リアクションの練習をおこなう様にした
  - 「カンペ」をスタッフが積極的に使用した
  - 設定方法のアドバイスをする（名前や背景の変更方法など）





**ご清聴ありがとうございました**

# 本日の内容

1. 開会のあいさつ

2. 本日の概要

## 3. コロナ禍における都道府県がん診療連携拠点病院の活動やがん相談支援センターの運営に関して

1) 全国のがん相談支援センターから寄せられている困難や傾向、その対処法について

2) 取り組み紹介

(1) 患者サロンの運営に関して

-オンラインを利用した患者サロンについて

-集合型患者サロンについて

(2) オンラインを利用した研修の継続について

(3) 増加した相談内容やその対応について

3) 質疑応答およびディスカッション

# がんサロン「きねの」の再開について

福井県立病院 地域医療連携推進室  
がん相談支援センター



## 【新型コロナウイルス感染者の発生状況とサロン再開までの経緯】

福井県推計人口 763,154人 (R2.9.1現在)

県内新型コロナウイルス感染者 256人 (R2.10.26現在)

感染者発生の経緯 12週～18週 (122人) 19週～27週(5/4～7/5) (0人)  
27週以降 (134人)



6/19 第2波に向けての県民行動指針Ver.6発表

6/19 院内対応指針で外部参加者有の院内行事等の注意事項が示された。



院内注意事項に基づき、がんサロン「きねの」の再開について検討する。

内容 月2回 がん関係の講座・リラックスヨガ・患者交流会等

# がんサロン「きねの」の新型コロナウイルス感染症対策について

## 【参加者】

1. 事前予約制（定員10名） 予定変更時に連絡が取れるように名前と連絡先を聞く。
2. 来院時指定入口で体温測定を実施、マスク着用で会場に入ってもらおう。
3. 会場受付で個別の用紙に、再度名前や連絡先の記入を依頼する。
4. 手洗いやアルコールでの手指消毒、フェイスシールドの着用を依頼する。
5. 飲食物の提供はしないが、個人での水分摂取は短時間で可とする。

## 【環境整備】

1. 会場 窓があり、10名が2メートル以上のソーシャルディスタンスがとれる会場に変更した。
2. 実施時間 1時間30分を1時間に短縮した。
3. 使用するいすやテーブル、マイク等の備品は、使用前後に消毒を行う。
4. スタッフ・講師も体温測定を行い、マスクやフェイスシールドを着用して実施する。
5. 講師には、実技等もあるため、配慮事項を事前に確認する。

## 【広報】

講師依頼通知やサロン案内チラシに上記の感染対策の内容を記載した。



# 課題と対応



1. 会場を普段患者さんが利用しない場所に変更したため、案内版を多数掲示したが、迷う方が増えた。

→予約時丁寧な説明を心掛けた。

2. サロンの時間が短くなったことやソーシャルディスタンスで、患者さんの交流が深まらない。

→テーブルを外すことで、話しやすくなった。

# 参加者の声

- ▶ 家にいると病気のことばかり考えてしまうが、月に2回でも、サロンに参加すると、気持ちが晴れる。
- ▶ みんなと話しができることが楽しい。
- ▶ 医師等医療従事者の講座を直接聞きたい。
- ▶ 飲物のサービスがなくなったが、短時間なので気にならない。

# 本日の内容

## 1. 開会のあいさつ

## 2. 本日の概要

## 3. コロナ禍における都道府県がん診療連携拠点病院の活動やがん相談支援センターの運営に関して

1) 全国のがん相談支援センターから寄せられている困難や傾向、その対処法について

### 2) 取り組み紹介

(1) 患者サロンの運営に関して

-オンラインを利用した患者サロンについて

-集合型患者サロンについて

(2) オンラインを利用した研修の継続について

(3) 増加した相談内容やその対応について

### 3) 質疑応答およびディスカッション

第15回情報提供・相談支援部会  
コロナ禍における  
がん相談支援センターの運営の取り組み  
～兵庫県における部会・研修の工夫～

2020年11月27日（金）

兵庫県立がんセンター 伊藤由美子

# ZOOM会議開催 問題点

ZOOMって、何？  
操作方法は？？  
できること・できないこと  
準備や開催のイメージ等  
**全くわからない**

ソフト面

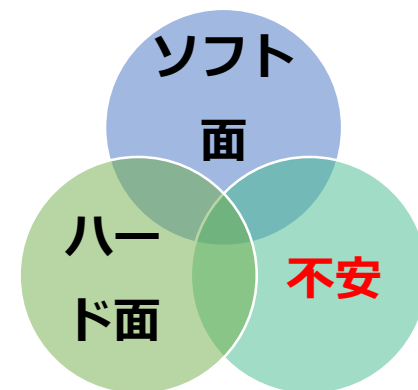
ハード面

**不安**

Web会議システム**ない**  
個室やネット環境が**ない**  
PCが**ない**  
ZOOMに対する病院の**抵抗、不信**

未知の世界への**不安**  
相談できる人が**いない**  
本当にできるのか？

# 取り組んだこと7-8月



## ①すべての拠点病院にWeb会議について確認

経験の有無、現状と課題、参加の可否

## ②ZOOMをとにかく調べる

仕組み、何ができるのか、使い方、準備、注意点など

## ③わかる人を探して、教えてもらう

## ④あらゆる場面を想定したZOOMリハーサル、何度も

1人⇒部署内⇒多施設と。操作に慣れる、問題と対策確認

## ⑤シンプルで簡単にできる方法を考える

## ⑥簡易マニュアルを作る

PCと環境の準備・注意点、招待状作成、接続方法、入室管理、会議の開き方/進め方/終わり方、質疑応答、GWの分け方、切り替え方、ファシリの役割、参加のルール、議事録作成など

## ⑦不安への対応

不安を分かち合う。でも心折れないよう励ます。自分にも

## ⑧直談判して、ZOOM購入へ

# 振り返って

## ・ 覚悟を決める

- ① 必ず、全員が参加できるようにする
- ② わからないこと、不安なことを素直に。恥ずかしさを捨てる
- ③ 周囲に助けを求める

## ・ 【どうすればできるか】を考える

## ・ 部会メンバーの強力、協力、チームワーク

- ① みんなで相談、一緒に考え、やってみる
- ② 失敗しても「これも経験」と割り切る

ご清聴  
ありがとうございました





# 本日の内容

## 1. 開会のあいさつ

## 2. 本日の概要

## 3. コロナ禍における都道府県がん診療連携拠点病院の活動やがん相談支援センターの運営に関して

1) 全国のがん相談支援センターから寄せられている困難や傾向、その対処法について

### 2) 取り組み紹介

(1) 患者サロンの運営に関して

-オンラインを利用した患者サロンについて

-集合型患者サロンについて

(2) オンラインを利用した研修の継続について

(3) 増加した相談内容やその対応について

3) 質疑応答およびディスカッション

# 新型コロナウイルスの影響の中での相談対応と課題

～オンライン面談・  
カンファレンスを実施して～



岡山大学病院がん相談支援センター

MSW石橋 京子

# コロナ禍の影響

## 【病院全体として】

- ◇入院・外来患者数は一時減少も現在は回復  
他疾患では外来回数を減らす患者あり、がんではその傾向は見られない
- ◇入院時、家族等の面会は原則禁止だが、病状説明等必要時には来院、  
対面で説明。病状説明を外来時（付添い2名まで）に行うケースも増加
- ◇退院前カンファレンスは必要に応じ対面で実施  
多発発生地域から帰省の家族は院内の立ち入り制限あり

## 【がん相談支援センターとして】

- ◇相談件数は増加傾向  
コロナ禍に因る相談（経済的な問題や在宅サービスの利用）が特段増加しているわけではなく、全体的に相談件数が増加
- ◇退院支援は、転院・在宅療養支援とともに相談件数が増加傾向  
病院の面会制限があるため、転院よりも在宅を目指す患者が若干増加  
緩和ケア病院の選択の際に、面会制限が緩やかな病院を選ぶ傾向も

# オンライン面談・カンファレンスの実施

- ①患者（70代）の病状説明に、関東在住の家族がオンライン参加
- ②患者（70代）の退院前カンファレンスに、関東在住の家族がオンライン参加

**【準備段階】** →退院2週間前より、医師と分担して準備開始

院内  
調整

- ①の場合 病状説明時の本人以外の同席者の確認
- ②の場合 カンファレンス参加者と参加方法についての確認
  - ・日程と役割分担の確認

環境  
設定

- ・機材の準備、Wi-Fi環境の確認
- ・家族との調整—オンライン参加の家族とメールアドレスの交換、カンファレンスアプリの打ち合わせ等
- ・参加者の日程調整

事前  
確認

- ・MSWは事前に患者、家族と別々に面接及び電話連絡  
関係機関も事前に家族への面接を実施  
→患者・家族の思いを丁寧に確認、関係機関とも共有

# 実施後の評価と課題

評価	<p>○患者・家族からはオンラインでも参加できたことに感謝の言葉を頂いた</p> <p>○移動・面会制限がある中で、オンラインでも参加する必要性・意義はある →機会を保障する責任もある</p>
課題	<p>〈環境〉</p> <p>○オンラインの準備にはマニュアル化が必要</p> <p>○パソコンに不慣れな人も対象となるので、アプリの使い易さの比較も必要</p> <p>〈情報・確認〉</p> <p>○面会制限のため、家族が患者の状態を理解しづらいことへの対応</p> <p>○事前の患者・家族との確認がより重要（病状の理解、意向等）</p> <p>〈コミュニケーション〉</p> <p>○患者と県外家族とのコミュニケーション不足</p> <p>○オンラインならではのコミュニケーションの課題への対応 →コミュニケーション力が求められる</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・細やかな表情や声の調子までは読み取りにくい</li><li>・発言のタイミングや話の間合いのとり方が難しい</li><li>・接触や空間のとり方（位置関係）等の非言語コミュニケーションがはかりにくい</li></ul>

# 本日の内容

## 1. 開会のあいさつ

## 2. 本日の概要

## 3. コロナ禍における都道府県がん診療連携拠点病院の活動やがん相談支援センターの運営に関して

1) 全国のがん相談支援センターから寄せられている困難や傾向、その対処法について

2) 取り組み紹介

(1) 患者サロンの運営に関して

-オンラインを利用した患者サロンについて

-集合型患者サロンについて

(2) オンラインを利用した研修の継続について

(3) 増加した相談内容やその対応について

3) 質疑応答およびディスカッション

第15回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会  
情報提供・相談支援部会

2020年11月27日(金) 13:00~15:00

休憩中

# 本日の内容（つづき）

4. 2021年度の相談員研修の開催・実施方法について
5. 患者体験調査からの報告
6. 情報コンテンツ作成・提供・活用、査読に関する協力依頼
7. 国立がん研究センター認定事業、他について
8. その他
  - オブザーバーからのコメント
  - 連絡事項
9. 閉会のあいさつ



# 2021年度の相談員研修の 開催・実施方法について

# 基礎(3)開催形態の変更について

- 2020年度は、定員270名での開催を検討していたが、コロナウイルスのため予定した日程はすべて中止となり、指定要件を満たせなくなる施設の受講生(27名)に限って10月に開催した
- 基礎(3)はグループワークを主とした研修であり、グループワークの議論の過程が学びの要素となるため、完全なオンライン型への移行は困難と判断した
- 一方で、現時点で、通常の規模（受講生とファシリテーター、スタッフ含め1会場60名）で開催計画を立てることは難しく、仮に計画しても中止せざるを得ないリスクも高い。また、直前の中止は、参加者にもファシリテーターにも多大な迷惑をかけることになる。

⇒ 2021年はハイブリッド型での開催を予定している

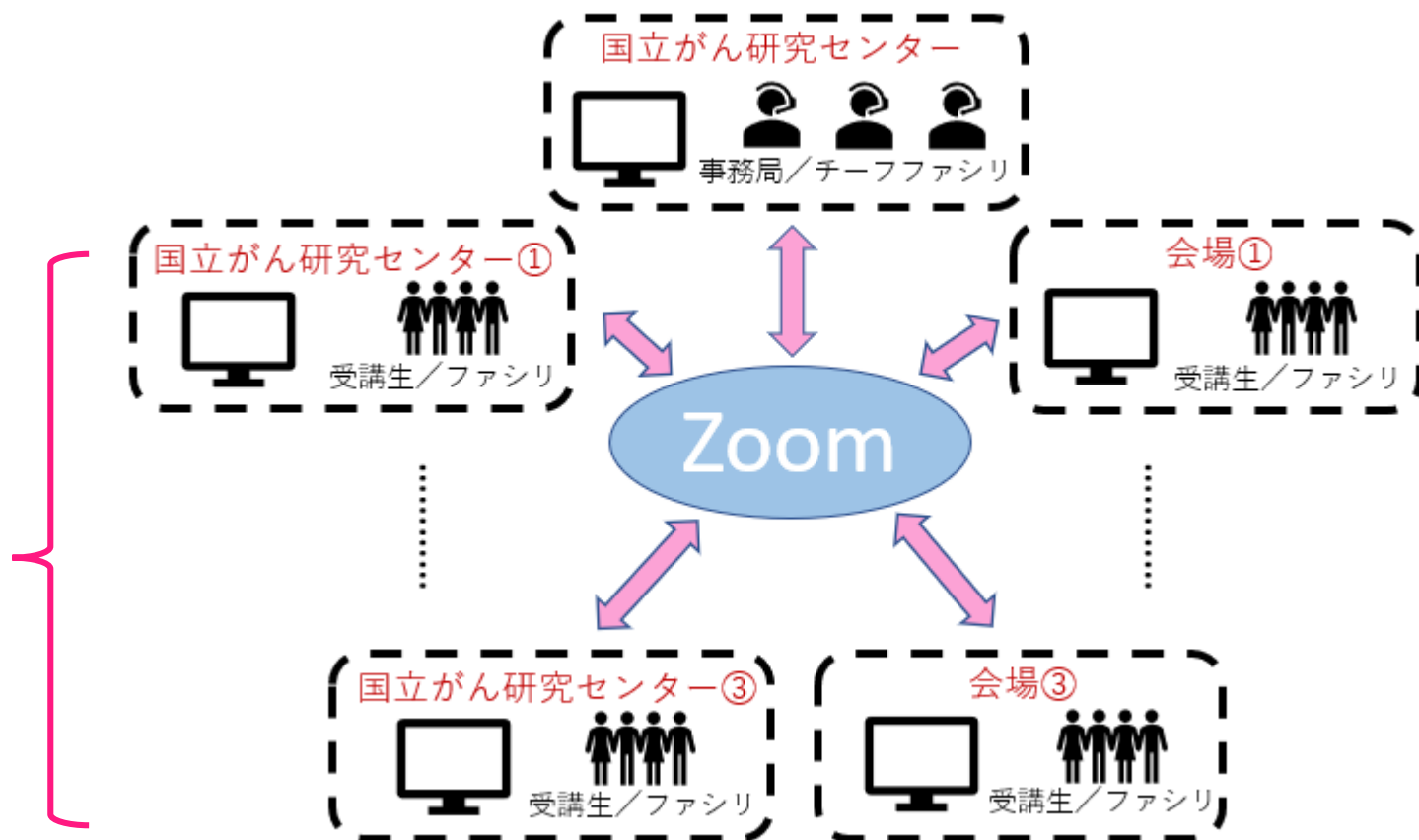
# 基礎(3)開催状況(過去5年間)

	定員	会場数	申込者数	受講決定者数	受講決定率
2016年	450名	10会場	575名	459名	79.8%
2017年	450名	10会場	472名	472名	100.0%
2018年	405名	9会場	464名	430名	92.7%
2019年	540名	12会場	524名	523名	99.8%
2020年	予定	270名	6会場	-	-
	実施	27名	1会場	323名	27名

当初は、2020年の東京オリンピックのため、2019年の定員を多めに設定し、2020年の定員を少なめに設定していた

# 2021年 基礎(3)開催形式

NCCでは、  
1会場につき  
3グループまで  
を想定  
(各都道府県開  
催分を優先)



グループワークは小規模にし(各都道府県単位)、  
会の進行や全体共有はオンラインで  
NCCと各グループをつなぐハイブリッド型を予定

# 各都道府県でお選びいただく選択肢

## 選択肢①（奨励）：

### 各都道府県で会場を準備

- 各会場の手配ならびにインターネットに繋がる環境、PC・マイク等の必要機材を、各都道府県で準備いただきます
- 1グループ5～7名程度とし、受け入れ可能なグループ数を事前に確認し、NCCにて選考の上、割り当てます
- 会場使用料は、各施設の貸し出し料金規定に基づいてお支払いします
- 会場手配～設営・運営補助にあたる担当者1名に、当研修の副講師に準じた謝金をお支払いします（2万円/施設/回）
- この条件で申し込みをいただいた場合は基本受け入れる予定ですが、都道府県の規模や希望日の偏りによって日程変更の依頼やお断りする場合があります

## 選択肢②：

### NCCでの受講

- 選択肢①が難しい都道府県の受講生には、NCCを会場とするグループでの受講枠を設けますが、人数は限られます。
- 選択肢②を選択された場合で、都道府県を超えた移動の自粛要請などが出された場合等は、研修の受講(もしくは、NCCでのグループ分の開催)ができなくなる可能性大ですが、中止となっても代替日程の確保は不可能です。

- 同一日程・同一施設での複数グループ可
- 同一施設での複数日程での開催可
- 各都道府県での同一日程での複数会場可

12月中旬頃、選択肢①か②かを、アンケートでお伺いします

# アンケートでお伺いする内容(予定)

1. 都道府県名
2. 選択肢①：都道府県で会場を準備  
選択肢②：NCC会場で個別に参加

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

以下は、選択肢①の場合に記載

※以下はおおよそのグループ数を把握するために伺います。正式なお伺いは、2021年1月中旬の予定です。

## 3. ご用意できるグループ数について

日程・会場毎に記入

- 日程（候補から選択）
- 会場（施設名を記入）  
※1グループの人数は5～7名で、各グループ毎にPCや他の機材を準備いただきます
- 上記の日程・会場で準備できるグループ数
- 会場施設の費用支払いの有無（規定基づいて支払・辞退可・未定）
- 事務担当の方への謝金支払いの有無（支払・辞退可・未定）

※白抜きは1月のアンケートでお伺いする予定

※他都道府県の場合や日程希望の偏り・受講生の申し込み状況によって、調整させていただきます。  
極力多くの選択肢を挙げていただくと助かります。

**回答例**

1. 東京都
2. 選択肢①
3.  
(1)6/2(水)・3(木)・●●がんセンター・2グループ  
(2)6/2(水)・3(木)・▲病院・1グループ  
(3)6/26(土)・27(日)・●●がんセンター・3グループ

# ご準備いただくグループワークの環境

- 十分な広さのある会議室
- 安定したインターネット環境
- インターネットに接続したパソコン... (左記以下は、すべて各グループに1台準備)
- 集音マイク
- スピーカー
- 三脚
- Webカメラ
- プロジェクター

・機材設置例



○グループワークに必要な物品は、NCCにて準備  
(マーカー・付箋・模造紙・テキスト、等々)

○ファシリテーター(現時点では原則都道府県内、調整がつかない場合には隣接都道府県までを想定)は、NCCより依頼

# 想定される各施設での準備

- 会場の確保～貸し出し手続き
- インターネット環境や必要物品の手配・準備
- NCCからの郵送物の受領、研修後のNCCへの郵送返却
- 外部受講生の受け入れ・当日案内
- 研修日の会場準備～片付け
- 研修時間中の事務関連業務の対応…等

※研修日にNCCから運営スタッフを派遣することはできません

## 【現時点案】

- 会場使用料は、各施設の規定に基づいてお支払いします
- 研修当日に会場設営・運営補助にあたる担当者1名(施設ではございません)に、当研修の副講師に準じた謝金をお支払いします (2万円/施設/回)
  - － 同一日程・同一施設で複数グループの場合： 2万円
  - － 同一施設での複数日程での開催の場合： 2万円×開催回数
  - － 各都道府県での同一日程での複数会場の場合： 2万円×複数施設



# 2021年基礎(3) 予定

	2020		2021										
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
基礎(3) 準備	各都道府県 での選択肢 の確認			会場の使用申請や 必要物品の準備									
			各会場との 日程調整										
基礎(3) 申込				募集要項 公開		申込 受付							
								開催				開催 (予備)	

- ① 6/2(水)・3(木)： 1会場 (6 Group)
- ② 6/12(土)・13(日)： 1～2会場 (6or12 Group)
- ③ 6/16(水)・17(木)： 1～2会場 (6or12 Group)
- ④ 6/22(火)・23(水)： 1～2会場 (6or12 Group)
- ⑤ 6/26(土)・27(日)： 1～2会場 (6or12 Group)
- (予備：⑥ 10/7(木)・8(金)： 1～2会場 (6or12 Group) )
- (予備：⑦ 10/21(木)・22(金)： 1～2会場 (6or12 Group) )
- (予備：⑧ 10/23(土)・24(日)： 1～2会場 (6or12 Group) )

# 本日の内容（つづき）

4. 2021年度の相談員研修の開催・実施方法について

**5. 患者体験調査からの報告**

6. 情報コンテンツ作成・提供・活用、査読に関する協力依頼

7. 国立がん研究センター認定事業、他について

8. その他

-オブザーバーからのコメント

-連絡事項

9. 閉会のあいさつ

# 患者体験調査結果報告

国立がん研究センター  
がん対策情報センターがん臨床情報部  
市瀬 雄一

# 患者体験調査とは

- 実際にがん診療がどのように変化してきているのか？

⇒患者の体験は中心的存在として、  
全国の患者とその家族の体験したがん診療の実情  
を把握するための調査

⇒第3期がん対策推進基本計画中間評価として、  
平成30年度国のがん対策の進捗評価を目的とした調査

# 調査方法

- 全国のがん患者を代表するようなサンプルに対して  
実施した郵送による質問紙調査
  - ⇒ 全国の院内がん登録参加施設を対象
  - ⇒ 無作為抽出
  - ⇒ 調査設計を反映し、母集団を代表できるように  
重み付けを行った上で集計した

# 質問項目例

- 初めて受診～診断～治療開始の時間
  - 治療開始までに十分な情報があったか
  - 医師・スタッフから必要事項の説明があったか
  - 経済的な負担の程度
  - 治療の見通しが持てたか
  - 就労継続への相談・サポートの有無
  - 相談支援センター、ピアサポート
  - 周囲との関係
- など

患者体験調査アンケート用紙（成人版）

<https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/000524745.pdf>

# 結果の概要

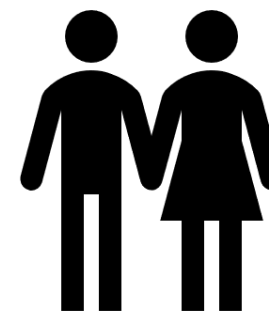
対象母集団：2016年に院内がん登録実施施設で診断、治療開始されたがん患者

## 2019年1-7月 回答

発送数	20,488
参加施設数	166施設
回収数	8,935(回収率43.6%)
報告対象	7,080

内訳

グループ	対象人数
A:希少がん患者	797 (11.3%)
B:若年がん患者	709 (10.0%)
C:一般のがん患者	5,574 (78.7%)



\*男性53.3% 女性46.2%  
平均年齢 69.4歳

\*注：無回答0.5%あり

# 「受けた医療への総合的評価」

(問23)総合的な評価結果(0-10点)



平均7.9点

0% 20% 40% 60% 80% 100%

納得いく治療選択ができた人  
(問15-2)

79.0%

専門的な医療を受けられたと思う人  
(問20-8)

78.7%

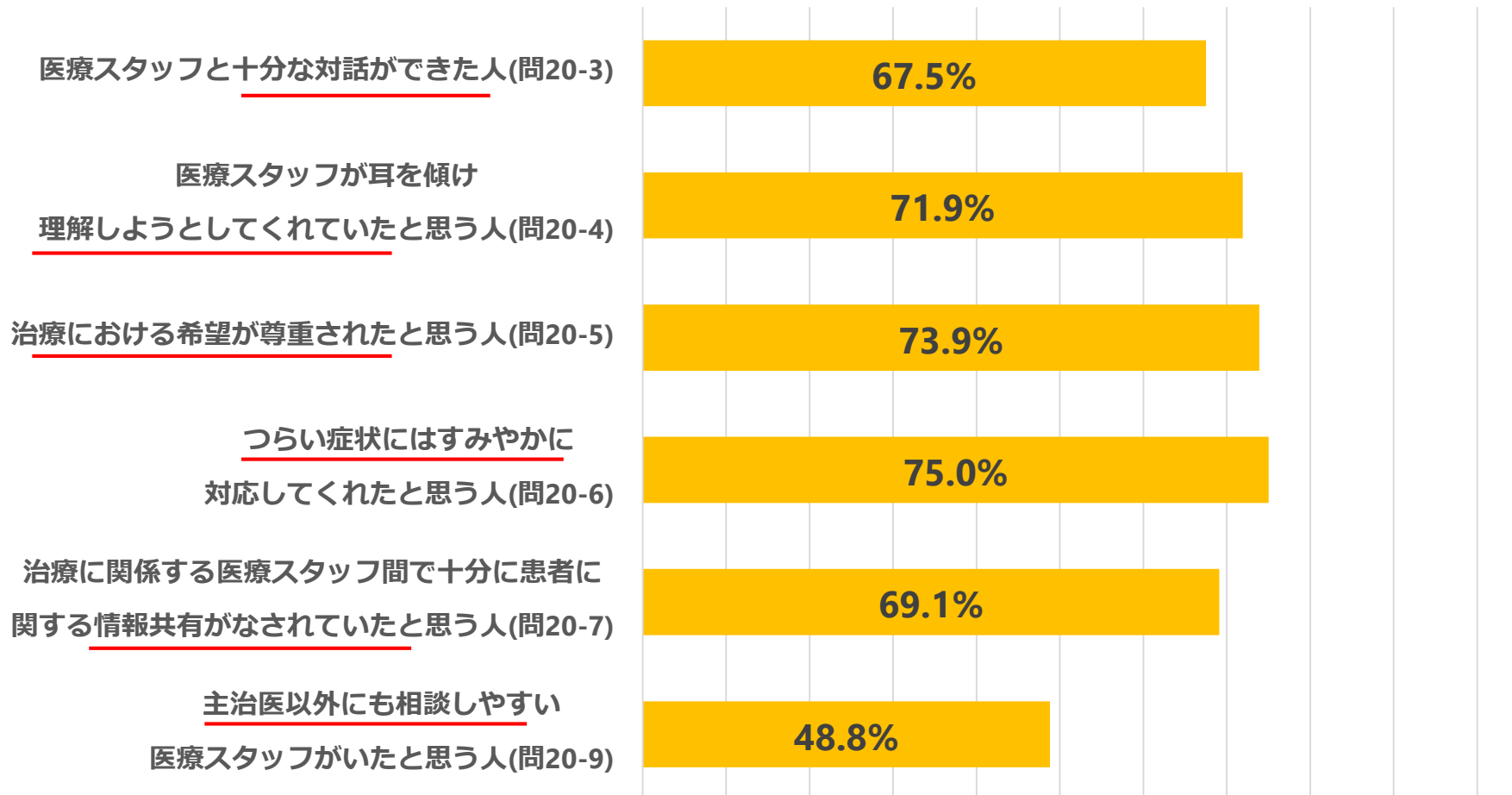
これまで受けた治療に納得している人  
(問20-10)

77.3%



# 「医療者とのコミュニケーション」

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%



# 「治療前の説明・見通し」

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%

治療決定までに医療スタッフから

治療に関する十分な情報を得られた人(問15-1)

75.0%

治療スケジュールの見通しに関する

情報を十分得ることができた人(問20-1)

75.1%

治療による副作用の予測などに関し

見通しを持てた人(問20-2)

61.9%

治療開始前に、担当医からセカンドオピニオン

について話があった人(問13)

34.9%

セカンドオピニオンについて尋ねた人

- ・希少がん患者 10.9%
- ・若年がん患者 16.3%
- ・一般がん患者 8.8%

治療開始前に、妊孕性への影響に関して

医師から説明があった人(問16)

52.0%

40歳未満対象

治療開始前に就労の継続について

医療スタッフから話があった人(問28)

39.5%

診断時就労していた人対象

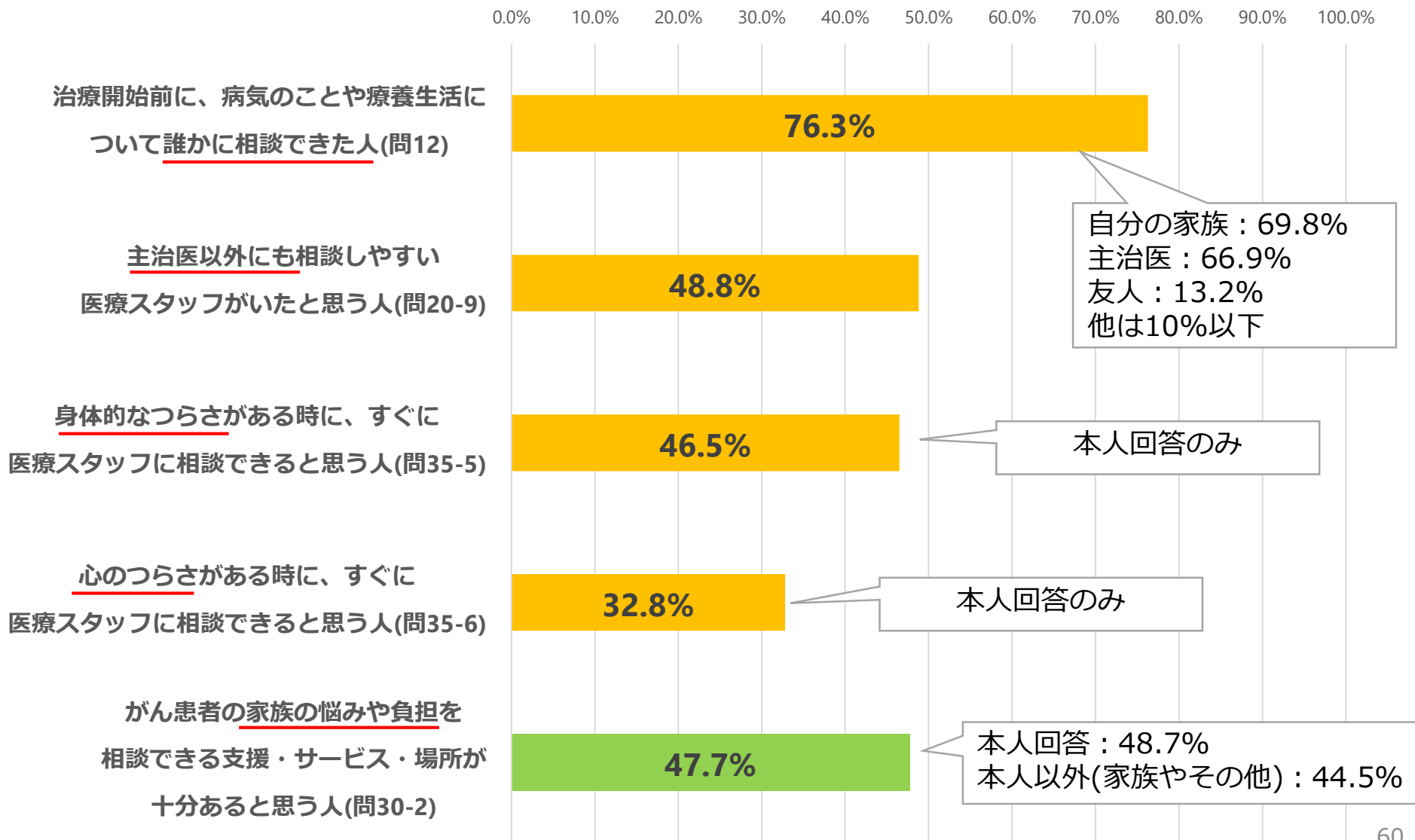
# 結果を受けて

- 患者と医療者間のコミュニケーションは十分とは言えない
- 「治療決定までに医療スタッフから十分な情報を得られた」と回答した人の割合は低くはないが、  
「セカンドオピニオン・就労支援・妊孕性」等の情報は医療者から十分説明されていない



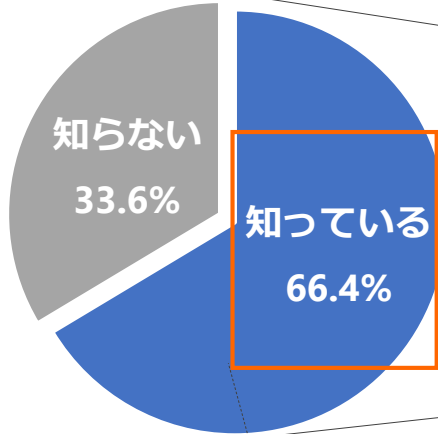
- ① **医療者に対して**患者が知るべき情報の周知あるいは教育の機会を提供することが必要
- ② **患者やその家族が診断直後から知っておくべき情報へアクセス**できるような仕組みの整備が必要

# 「療養・症状の相談」



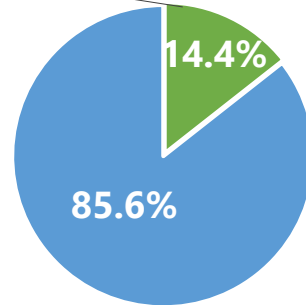
# がん相談支援センターに関すること

相談支援センターの認知度



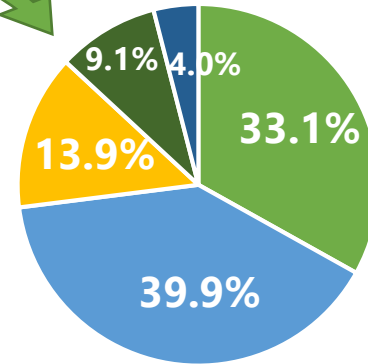
前回：「利用したことがある」、「利用したことはないが知っている」と回答した人 56.0%

相談支援センターの利用



■ 利用したことがある  
■ 利用したことはない

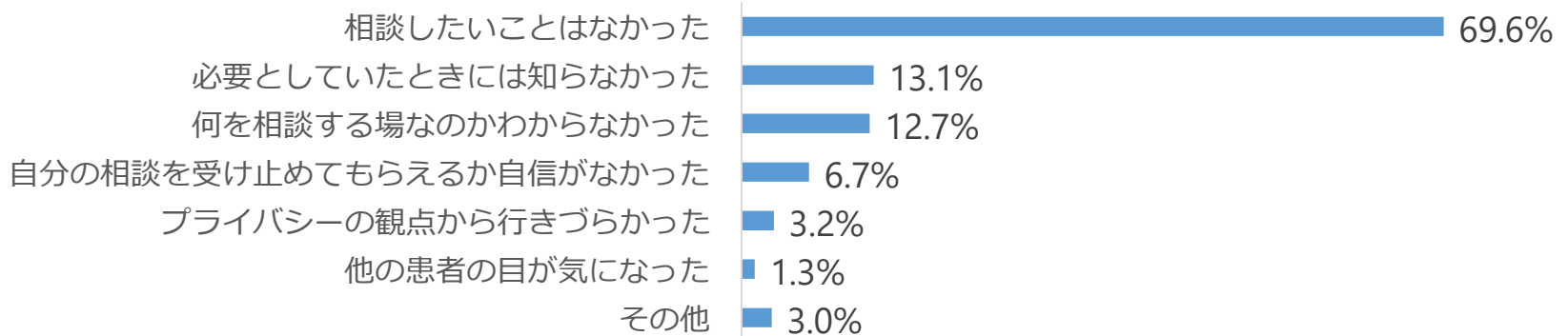
利用満足度



73.0%

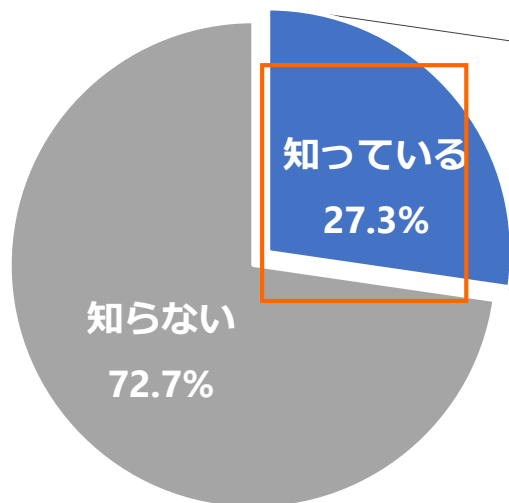
■ とても役に立った  
■ ある程度役に立った  
■ やや役に立った  
■ どちらともいえない  
■ 役に立たなかった

相談支援センターを利用しなかった理由（複数回答あり）

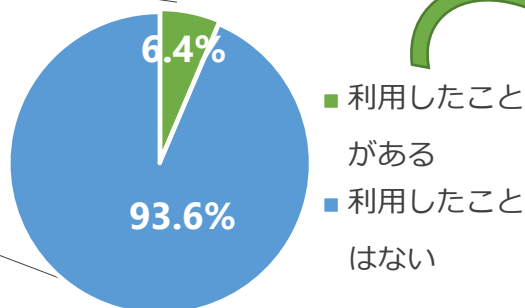


# ピアサポートに関すること

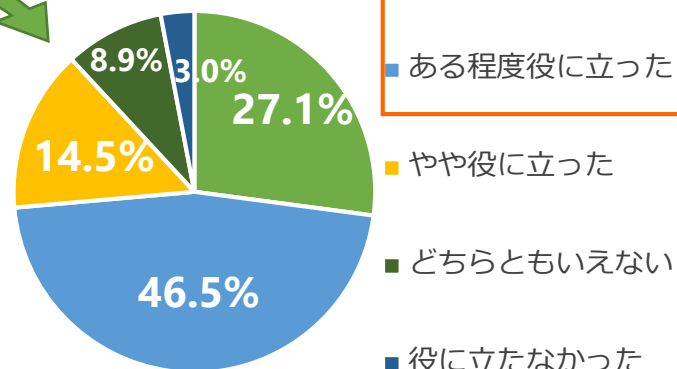
## ピアサポートの認知度



## ピアサポートの利用



## 利用満足度

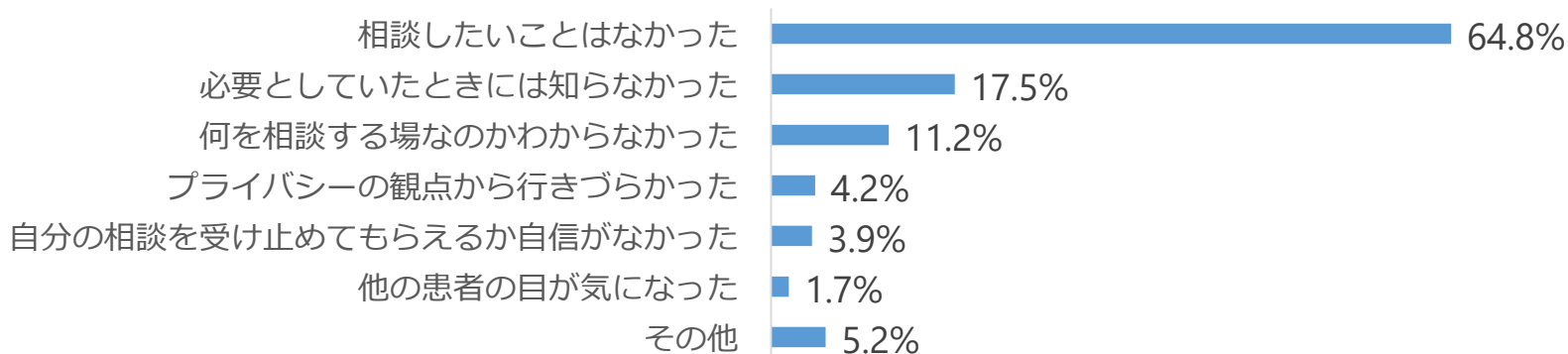


73.6%

とても役に立った  
ある程度役に立った

やや役に立った  
どちらともいえない  
役に立たなかった

## ピアサポートを利用しなかった理由（複数回答あり）



# 結果を受けて

- 「患者の家族が悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分ある」と回答した人は、5割弱となっており、相談の場が少ないことがうかがえる。
- また、相談支援センターやピアサポートの認知度も高いとは言えない。



**すべての患者ががん相談支援センターを知り、  
必要時に円滑に活用できる体制を整えることが必要**

# まとめ

- 患者体験調査の結果を踏まえた課題

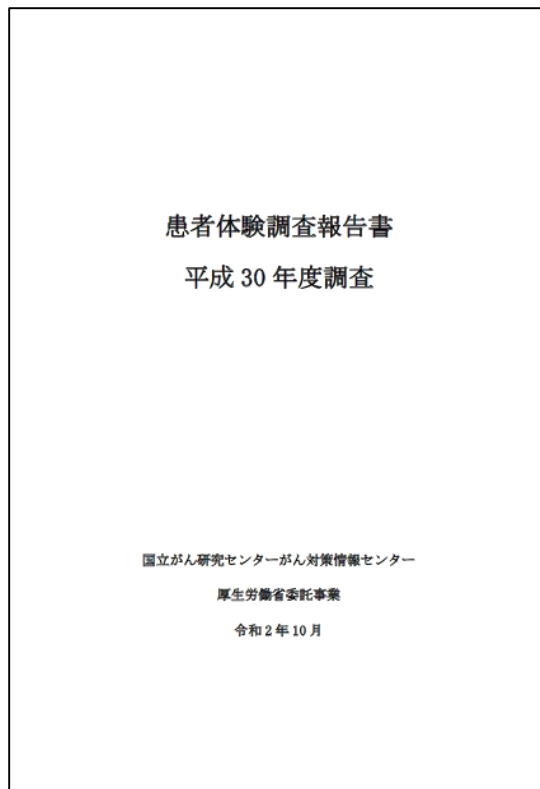
① 医療者への周知・教育

② 相談支援センターのさらなる活用

③ 患者への必要な情報の周知



# より詳しく知りたい方は



国立がん研究センターがん対策情報センターのHP

患者体験調査

検索

[https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/health\\_s/project/survey/index.html](https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/health_s/project/survey/index.html)

(印刷冊子は準備中)

# 謝辞

- 本調査にご協力いただいた病院の関係者の方々、そして貴重な時間を割いてご回答いただいた患者の皆様にご心より感謝いたします。
- また、本調査の実施及び報告書作成にあたり、厚生労働省がん対策推進協議会、全国がん患者団体連合会の関係者の皆様、厚生労働省研究班の皆様はじめ、多くの方から詳細なご意見をいただきました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

ご清聴ありがとうございました

# 追加資料 1 : 調査対象

例：埼玉県の場合



県拠点：埼玉がんセンター

地域拠点：

- さいたま赤十字病院
- 川口市立医療センター
- さいたま市立病院
- 埼玉医科大学総合医療センター
- 埼玉県済生会川口総合病院
- 春日部市立医療センター
- 深谷赤十字病院
- 獨協医科大学埼玉医療センター
- 戸田中央総合病院
- 国立病院機構埼玉病院
- 埼玉医科大学国際医療センター
- 自治医科大学附属さいたま医療センター

## 1. 病院抽出

院内がん登録

<b>都道府県</b>	都道府県拠点病院	全数
	地域拠点病院	2施設（無作為）
<b>全国</b>	地域がん診療病院	10施設（無作為）
	それ以外の 院内がん登録病院	20施設（無作為）

## 2. 患者抽出：各施設内で計120名+5名

A	希少がん（暫定定義）	15名
B	若年がん（19-39歳）	15名
C	一般のがん（上記以外）	70名
D	2013年診断 長期療養進行期(III,IV期)	10名
E	診療情報検証患者	10名
	がん以外の受診者	5名

# 追加資料 2 : 回答選択肢

H26年度方式(前回)

		そう 思わ ない	あ まり そ う 思 わ な い	ど う も い え な い	ち や そ う 思 う	そ う 思 う
1.	「がんの治療」を決めるまでの間に、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができた	1	2	3	4	5
2.	がんの診断から治療開始までの状況を総合的にふりかえって、納得いく治療を選択することができた	1	2	3	4	5

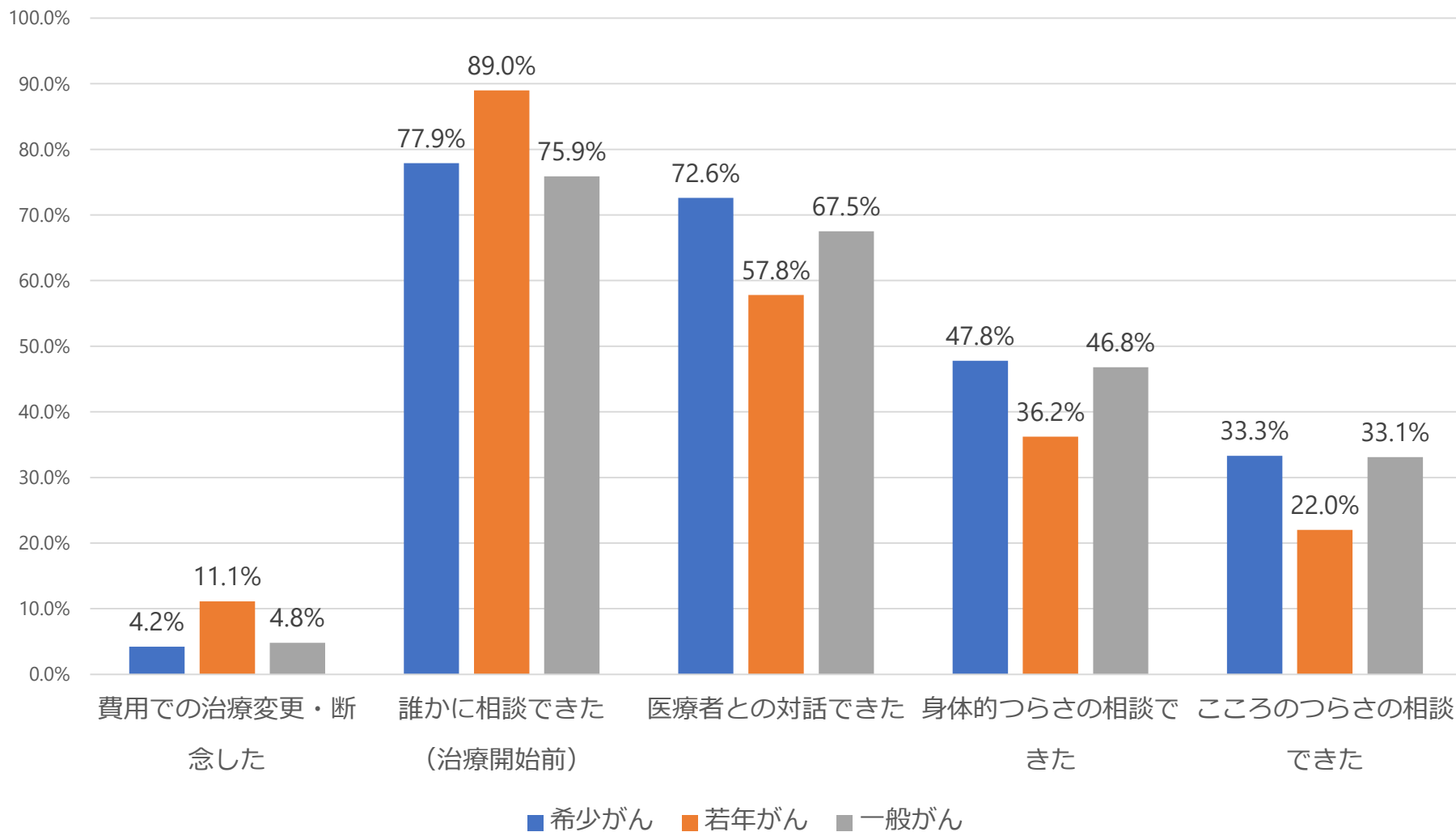
H30年度方式 (今回)

		そう 思わ ない	ど う も い え な い	ち や そ う 思 う	あ る 程 度 そ う 思 う	と と も そ う 思 う
1.	「がんの治療」を決めるまでの間に、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができた	1	2	3	4	5
2.	がんの診断から治療開始までの状況を総合的にふりかえって、納得いく治療を選択することができた	1	2	3	4	5

← 拡大

比較は補正係数を算出して参考可能なように対応

# 追加資料3：若年（19-39歳）患者



# 本日の内容（つづき）

4. 2021年度の相談員研修の開催・実施方法について
5. 患者体験調査からの報告
- 6. 情報コンテンツ作成・提供・活用、査読に関する協力依頼**
7. 国立がん研究センター認定事業、他について
8. その他
  - オブザーバーからのコメント
  - 連絡事項
9. 閉会のあいさつ

情報コンテンツ  
作成・提供・活用、  
査読に関する協力依頼

国立がん研究センターがん情報編集委員会  
より

# 部会長より部会委員のみなさまへ

1. このたびの情報作成に関する協力依頼（協力者を募る）を、情報提供・相談支援部会として受けてもよいか。
2. 当部会の課題や課題解決の手段とも合致することから、今回の企画情報作成後の情報の効果的な活用方法については、部会として、積極的に関与、協力していく、としてよいか。

- 「**主治医等から**相談支援センターについて説明する等、診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること」（H30年7月31日 整備指針より）
- 「**拠点病院のすべての主治医（チーム）が**、すべての患者に、十分な時間をかけて、複数回以上のインフォームド・コンセント、セカンドオピニオンを得るために必要な支援、・・・、患者にとって、患者自身の意思が尊重されていることを実感できる体制を拠点病院として確立することが必要である」（第10回 情報提供・相談支援部会 2018/6/12 整備指針において記載すべき事項に関する意見書」参考資料4-2 [https://ganjoho.jp/med\\_pro/liaison\\_council/bukai/shiryo10.html](https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/bukai/shiryo10.html))



# 情報提供・相談支援部会 への 協力依頼

令和2年11月16日

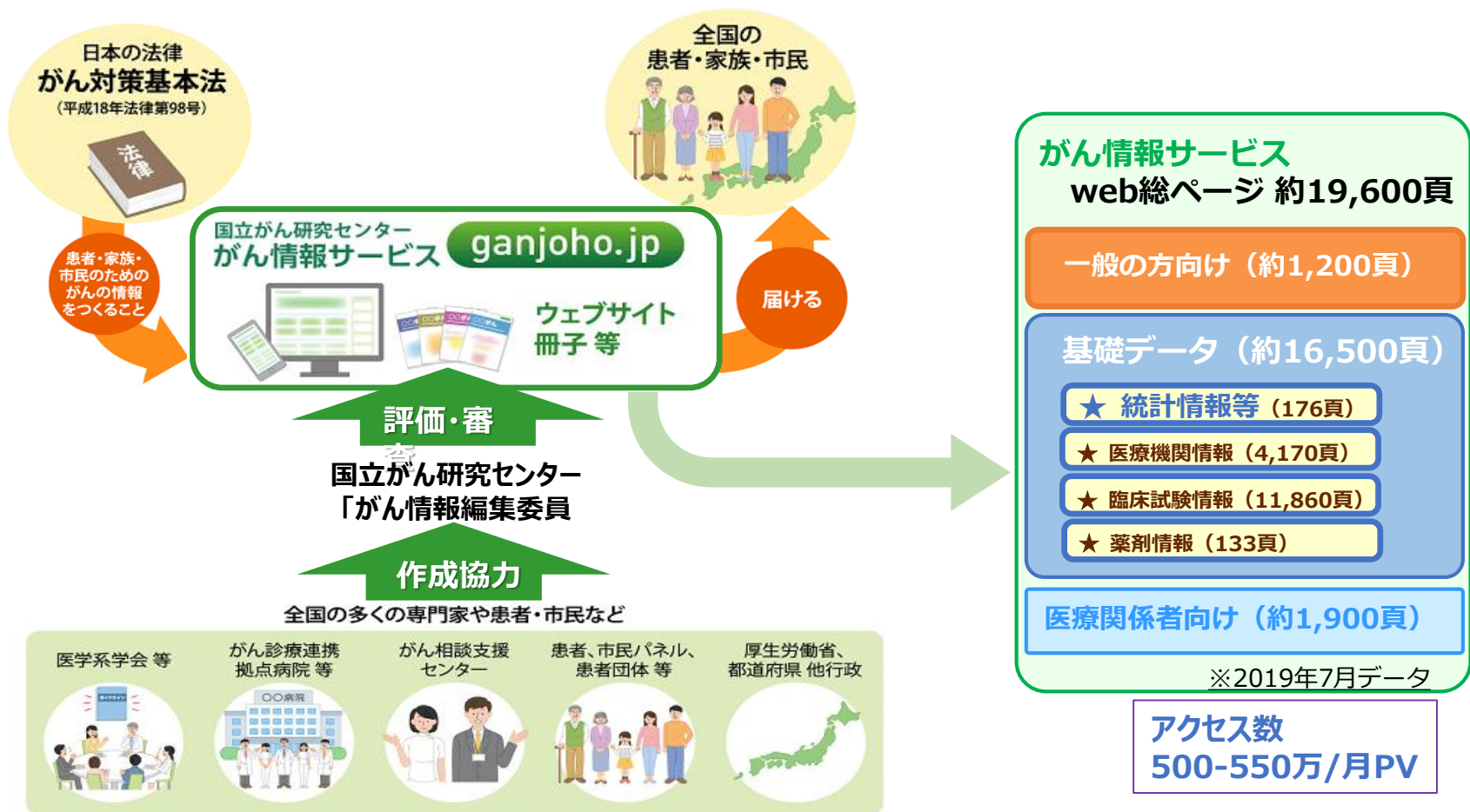
国立がん研究センターがん対策情報センター  
がん情報編集委員会 委員長 若尾 文彦

このたび、診断されて間もない患者向けに提供する既存の情報の更新作成について検討を進めております。この情報コンテンツの作成を行うにあたり、現在のがん対策の動向や臨床現場の状況を反映させた、がん診療連携拠点病院の医師をはじめとする医療関係者の皆さまにも活用しやすいものを作成したいと考えております。貴部会で取り扱われている活動内容とも一致する内容かと考えており、貴部会のご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

具体的には、貴部会の構成メンバーのみなさまより、医師をはじめとする職種異なる医療者の方複数名の推薦をお願いできればと考えております。ご対応いただきたい主な内容は、以下の通りです。ご検討賜れますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 「がん情報サービス」の情報作成の体制

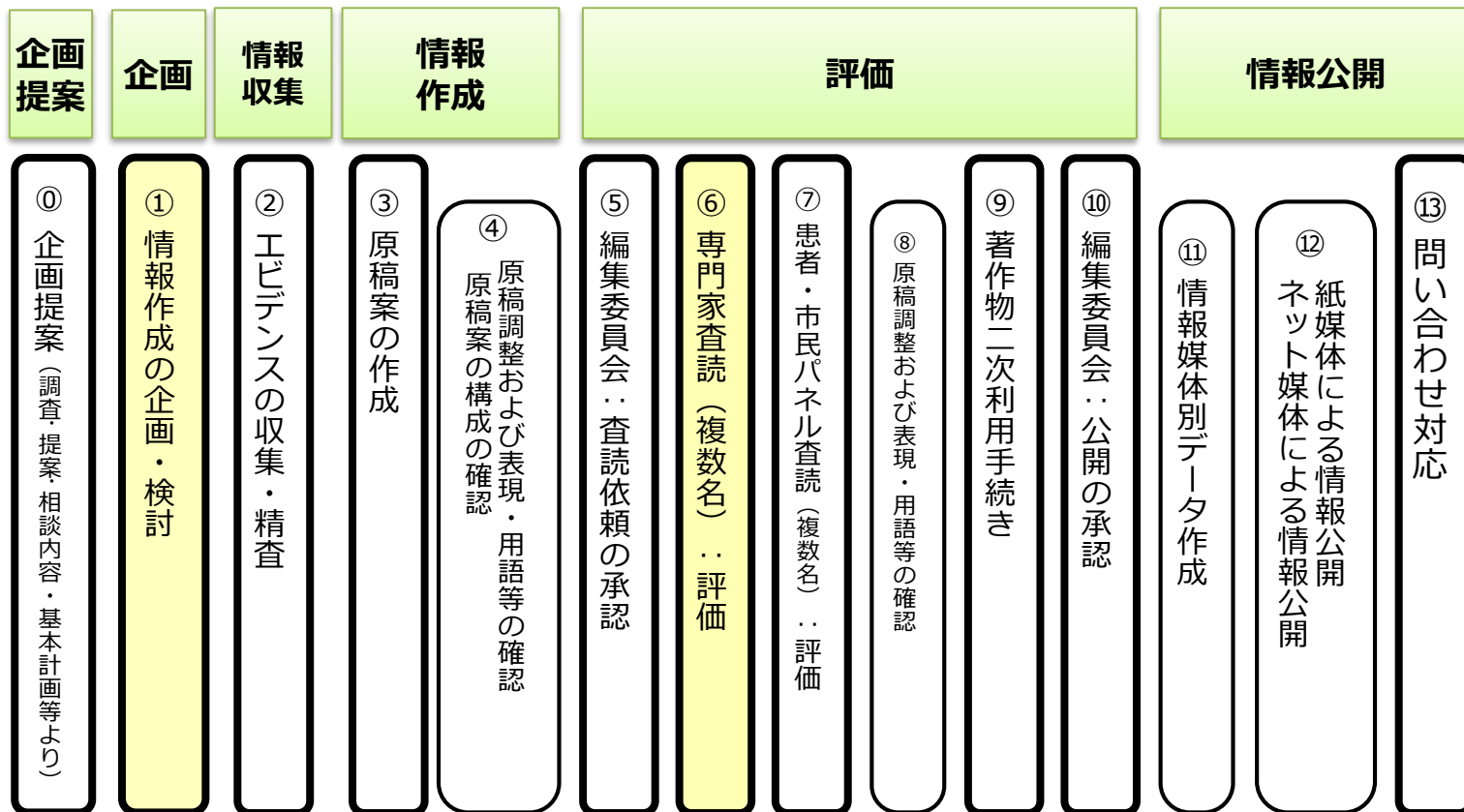
<https://ganjoho.jp/aboutus/index.html>



# 「がん情報サービス」における一般向け情報作成の品質管理のプロセス

<https://ganjoho.jp/aboutus/plan/flow.html>

## ● 今回の協力依頼



# がん情報編集委員会

<https://ganjoho.jp/aboutus/collaborator.html>

2020年6月より、外部の編集委員を入れた体制へ 1回／月開催

## 編集委員長：

若尾文彦 国立がん研究センターがん対策情報センター

## 編集委員：

片野田耕太 国立がん研究センターがん対策情報センター がん統計・総合解析研究部  
加藤雅志 国立がん研究センターがん対策情報センター がん医療支援部  
杉山雄大 国立国際医療研究センター 研究所 糖尿病情報センター 医療政策研究室  
鈴宮淳司 コミュニティホスピタル甲賀病院 血液内科  
藤也寸志 九州がんセンター  
堀芽久美 国立がん研究センターがん対策情報センター がん統計・総合解析研究部  
松本陽子 全国がん患者団体連合会  
萬谷和広 大阪南医療センター がん相談支援センター地域医療連携室

## 作成委員／編集事務局：

国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供部  
高山智子（事務局長）  
国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報提供部 医療情報コンテンツ室  
早川雅代、安藤絵美子、石川文子、佐野由美子、堀抜文香、丸山瑞穂、渡部乙女

## 作成協力者：

国立がん研究センターがん対策情報センター  
齋藤英子、竹内恵美、平野公康、三村麻子、八巻知香子

# がんと診断されて間もない人への情報提供資材： がん情報編集委員会企画案（1）

## 目的

- 確定診断されて間もない患者に、これから治療を始めるにあたって「聞く、確認する、相談する」といった行動につながるように水先案内をする

## 利用・活用ルート イメージ

- WEBで見る
- がん相談支援センターで冊子を手にとる
- 院内のリーフレットラックで冊子を手にとる
- 医師から冊子を手渡される
- 医師からがん相談支援センターを紹介され、冊子を手にとる
- 図書館などの公共機関のリーフレットラックなどで冊子を手にとる



「がんの冊子」「療養手帳」  
「地域のがん情報」とともに  
4点の冊子体セットで活用  
する

## 情報量

- 冊子P32版（8000字）

## 公開予定時期

- 2021年度中

# がんと診断されて間もない人への情報提供資材： がん情報編集委員会企画案（2）

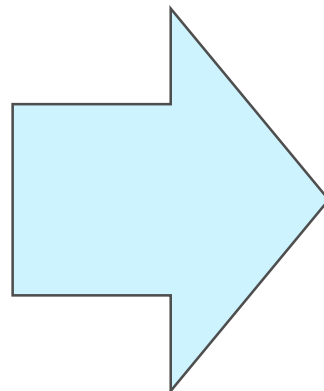
関連資材の刷新に伴い、貴部会のご協力のもと、より適切な情報提供方法も想定した、資材作成とする。



2012年5月  
第1版発行



2012年3月  
第2版発行



**NEW  
共同作成資材**



普及新版  
2018年7月第1版第5刷発行  
(初版2011年3月)

# <ご協力のご検討いただきたい内容>

## ■貴部会の構成メンバーの先生のご推薦（複数名）

### 1) 現状に即した「情報作成・提供・活用」に関する ご意見をいただく（複数名）

（可能であれば、全7, 8名程度

医師3名、社会福祉士2名、看護師2名、事務員1名：）

- ・ 2020年度内に2～3回程度のオンライン会議へ参加いただく

### 2) 作成された情報の査読をしていただく（複数名）

（可能であれば、全4名程度：医師2名、社会福祉士1名、看護師1名）

- ・ 作成された情報の適切さなどのご査読をいただく（2021年上半期頃を予定）

# 部会長より部会委員のみなさまへ

1. このたびの情報作成に関する協力依頼（協力者を募る）を、情報提供・相談支援部会として受けてもよいか。
2. 当部会の課題や課題解決の手段とも合致することから、今回の企画情報作成後の情報の効果的な活用方法については、部会として、積極的に関与、協力していく、としてよいか。

- 「**主治医等から**相談支援センターについて説明する等、診断初期の段階から相談支援センターの周知が図られる体制を整備すること」（H30年7月31日 整備指針より）
- 「**拠点病院のすべての主治医（チーム）が**、すべての患者に、十分な時間をかけて、複数回以上のインフォームド・コンセント、セカンドオピニオンを得るために必要な支援、・・・、患者にとって、患者自身の意思が尊重されていることを実感できる体制を拠点病院として確立することが必要である」（第10回 情報提供・相談支援部会 2018/6/12 整備指針において記載すべき事項に関する意見書」参考資料4-2 [https://ganjoho.jp/med\\_pro/liaison\\_council/bukai/shiryo10.html](https://ganjoho.jp/med_pro/liaison_council/bukai/shiryo10.html)）



# 協力者募集・記入フォームにご協力お願いします。

1) 現状に即した「情報作成・提供・活用」に関する**意見を出す**

募集人数：医師3名、社会福祉士2名、看護師2名、事務員1名（全7,8名程度）

※年度内に2～3回程度のオンライン会議への参加

2) 作成された情報の**査読をする**

募集人数：医師2名、社会福祉士1名、看護師1名（全4名程度）

※2021年度上半期頃にメール依頼

ご協力いただける方は、**自薦／氏名／所属／職種**  
をアンケートフォーム（資料4）にご記入ください。

※がん情報編集委員会より、改めてご連絡さしあげます。

※応募者多数の場合には、地域や職種、ご対応可能スケジュール等を加味して、選考させていただきます。ご了承いただければ幸いです。

できれば本日、遅くとも**12月4日(金)まで**にご返送ください

返送先 FAX:03-3547-8577

mail: joho\_sodan\_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp

# 本日の内容（つづき）

4. 2021年度の相談員研修の開催・実施方法について
5. 患者体験調査からの報告
6. 情報コンテンツ作成・提供・活用、査読に関する協力依頼
- 7. 国立がん研究センター認定事業、他について**
8. その他
  - オブザーバーからのコメント
  - 連絡事項
9. 閉会のあいさつ

# 国立がん研究センター認定事業、 他について

集合研修 E-ラーニング

書類審査 有償

# がん専門相談員の育成

## 相談支援認定事業（相談員）

認定審査

認定更新

都道府県拠点  
病院、協議会  
主催の研修等

指導者研修  
・研修企画  
・情報支援

- ・認定更新により、知識の更新
- ・指導者の育成・継続研修

Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ 群

Ⅰ 群  
継続研修  
(認定取得)

Ⅰ 群  
継続研修×3年間  
(認定更新)

Ⅱ 群  
情報支援(指導者SU研修)

Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ 群

学習の手引き



+

基礎研修3

Ⅱ 群

基礎研修3

基礎研修2

Ⅰ 群

基礎研修2  
(知識確認)

基礎研修1

基礎研修1  
(知識確認)

- ・ E-ラーニング導入により供給増
- ・ 認定審査の実施により、質の担保
- ・ 認定審査料・更新料により供給増に対応
- ・ 非拠点の相談の質を認定により担保

## 相談支援認定事業（施設）

施設認定

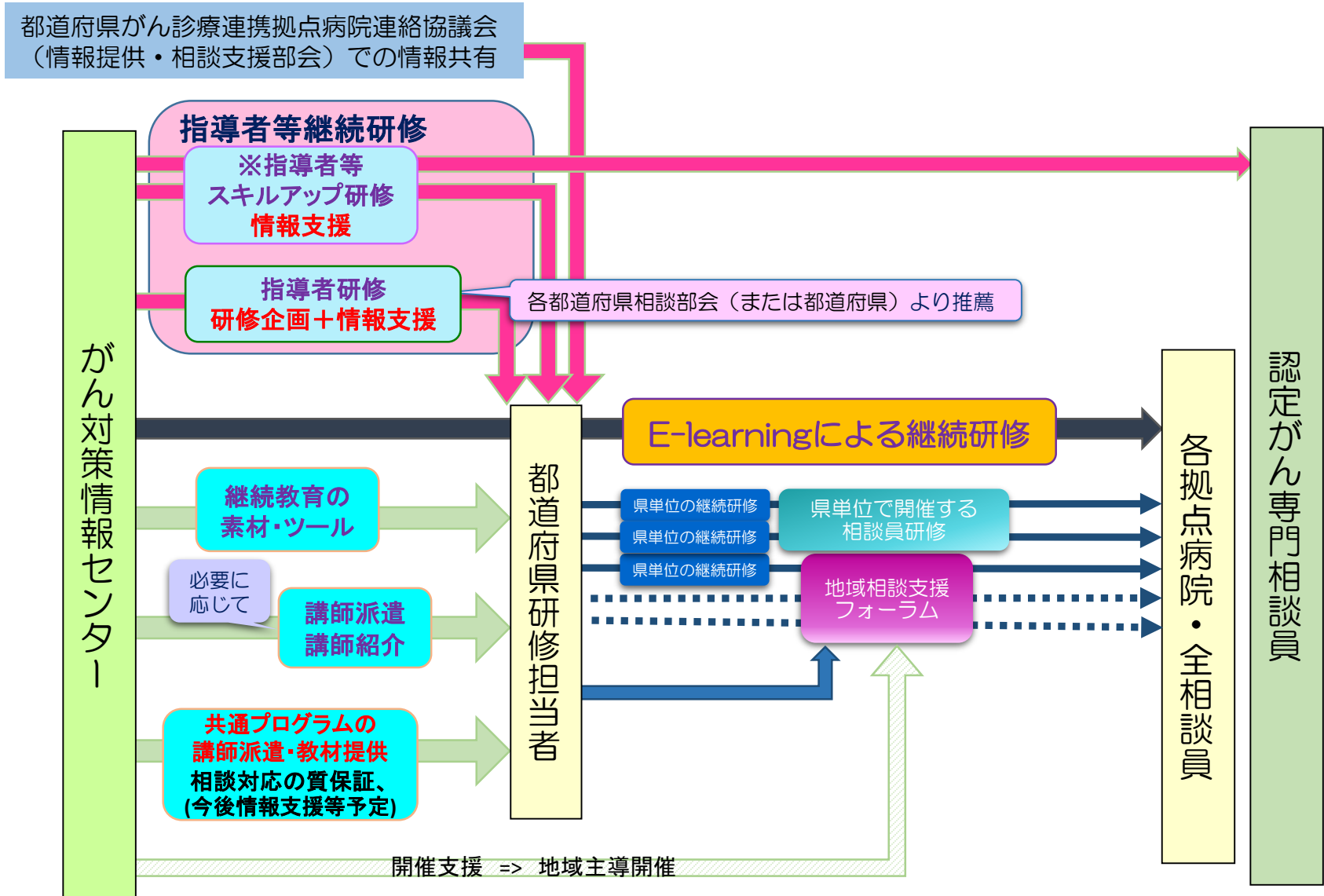
認定更新

- ・ 施設認定による質の担保

がん診療連携  
拠点病院

都道府県  
指定病院など

# (基礎研修以降の) 継続的・系統的研修機会の場の持ち方



- 全国的に展開が望まれるプログラムは、E-learning教材の公開、講師派遣・教材提供を積極的に実施

# がん対策情報センターで提供する研修プログラム

形式	プログラムカテゴリ	指定要件の有無	主目的
	学習の手引き(第3版)	—	全相談員が利用できる相談員の副読本 (2020年3月改訂済)
E-learning	基礎研修(1)(2) (研修修了/知識確認)	○	基礎的知識の習得
	継続研修 (認定取得/認定更新)	—	基礎的知識のアップデート
	アップデート研修	—	トピック的知識の習得
集合研修	基礎研修(3)	○	対象者理解、地域のファシリテータの育成
	指導者研修	○ 都道府県拠点	地域の研修企画者の養成
	指導者等スキルアップ研修	—	全国に普及したい研修プログラムの先行提供 (「情報支援」を重点的に提供)
コンサル	研修企画コンサルテーション	—	地域で研修を企画するにあたり抱えている問題・課題の解決 (オンデマンド形式)

国立がん研究センター がん情報サービス ganjoho.jp 医療関係者向けサイト

診療支援 研修・セミナー 多地点テレビカンファレンス

がん相談支援 予防・検診 拠点病院連絡協議会

がん登録・統計

病院を探す

がん相談支援

更新情報

2020年05月13日 「新型コロナウイルスQ&A」を更新しました。

関連情報

- がんの冊子
- がん対策
- 調査を採寸

がん相談支援

がん相談支援センターの円滑な運営をサポートするための情報やツールを提供しています。

■がん相談支援センター相談員研修の概要

研修の詳細については、「研修・セミナー」をご覧ください。

- 国立がん研究センターにおけるがん相談支援センター相談員の育成に関する教育・研修プログラム提供方針(PDF:340KB)
- 令和2年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修講師派遣依頼の募集の開催予定について
- 2020年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修講師派遣依頼の募集
- 地域開催の研修企画コンサルテーション(随時)のご案内

■地域相談支援フォーラム

【令和元年度】

地域開催の研修企画コンサルテーション(随時)のご案内

更新・確認日:2019年04月16日【履歴】

■本事業の目的

【コンサルテーションの基礎】【応募の条件】【申し込み先】【問い合わせ先】

■本事業の目的

2018(平成30)年へ発出された「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」では、都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件として、「地域拠点病院、特定領域拠点病院、地域がん診療病院の相談支援に携わる者に対する継続的かつ体系的な研修を行うこと」が求められています。国立がん研究センターでは、相談員を対象とした研修企画に必要な知識を学ぶための「指導者研修」を提供していますが、僅か数日の研修のみで地域の研修を企画、運営することは困難を伴うのが当然です。

昨今の相談支援センターが担う業務は、がんゲノム医療や生殖機能温存に関する相談など拡大の一途をたどっています。また、がんに関する医療情報は随時更新されていますし、がん患者、家族の支援ニーズは多様化、深刻化しています。

地域相談支援フォーラム

## 研修企画コンサルテーション

がん相談支援センター相談員のためのガイドブック

更新・確認日:2020年03月09日【履歴】

がん相談支援センター相談員が、相談支援の体制をつくるときや、相談対応をするときに役立つガイドとして使えるよう、手引きやヒント集の形でまとめたものです。ぜひご利用ください。

下記よりダウンロードできます。※のある3冊については1冊単位での購入が可能です。施設ごとに冊子体をご希望の場合には、がん情報サービス刊行物発注システムのご案内をご覧ください。

- 「がん専門相談員のための学習の手引き〜実践に役立つエッセンス〜(第3版)」(PDF:820KB)
- 「がん専門相談員のための「社会保険労務士との連携のヒント集」(PDF:2,569KB)」

●がん情報サービス刊行物発注システムのご案内

●がん対策情報センター作成「がんの書籍」の普及・活用支援ツール

●現業臨床のある方への情報提供のご案内

## 学習の手引き

下にスクロール

【平成24年度】

■がん相談支援センター相談員サポート

- がん相談支援センター相談員のためのガイドブック
- 「がん専門相談員のための学習の手引き(第3版)」購入のご案内
- がん相談支援センターについてのQ&A
- がん相談支援センター「相談のための基本形式」を用いた相談記録のための記入シートおよび入力ツールのご案内
- がん情報サービス刊行物発注システムのご案内
- がん対策情報センター作成「がんの書籍」の普及・活用支援ツール
- 現業臨床のある方への情報提供のご案内
- 新型コロナウイルスQ&A [SPSATE!](#)

■国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ

旧「都道府県がん診療連携拠点病院向け」、「がん相談支援センター相談員指導者研修修了者向け」、「都道府県がん相談員研修連絡担当者向け」サポートページを統合いたしました。

(閲覧には、都道府県がん診療連携拠点病院専用のID、パスワードが必要です。ID、パスワードは都道府県がん診療連携拠点病院メンバーリストにてご案内をいたしましたのでご確認ください。不明な場合には「がん情報サービス事務局」までお問い合わせください)

# 2020年度 相談員研修スケジュール①

E-learning	科目数	費用(税抜)	申込期間	受講期間
基礎研修(1)(2)				
研修修了コース	19科目	無料	1月21日～8月末日	1月中旬～10月末日
知識確認コース	19科目	16,500 (テキスト代含)	1月21日～8月末日	1月中旬～10月末日
継続研修				
認定取得コース	28科目	15,000	4月14日～10月末日	4月上旬～11月末日
認定更新コース	28科目 (必修11/ 選択17科目)	5,000 or 無料 (認定時期により)	4月14日～10月末日	4月上旬～11月末日
アップデート				
がんゲノム医療	4科目	無料	2月28日～9月末日	2月28日～11月末日



# 2020年度 相談員研修スケジュール②

集合研修	定員	日程	費用(税抜)	申込期間	受講日	集合/オンライン
基礎研修(3)						
国指定コース	27	2日間	無料	1月28日～ 2月13日	①4/11(土)・12(日) <b>中止</b> ②4/25(土)・26(日) <b>中止</b> ③5/23(土)・24(日) <b>中止</b> ④10/3(土)・4(日)	集合 ※整備指針を満たせない施設のみ
非拠点コース		2日間	30,000			
指導者研修						
指導者	45	4日間	30,000	4月8日～ 5月29日	前期：8/26(水)・27(木) 後期：10/29(木)・30(金)	オンライン
指導者スキルアップ研修						
情報から始まる がん相談支援	30	2日間	20,000	7月1日頃～ 20日	10/29(木)・30(金)	オンライン
情報支援・ 相談対応モニタ リング	計10	1日間	10,000	10月23日～ 11月30日	①1月29日(金) ②2月19日(金)	オンライン

# 2021年度 相談員研修スケジュール①

E-learning	科目数	費用 (税抜)	申込期間	受講期間
基礎研修(1)(2)				
研修修了コース	19科目	無料	2月中～8月末日	2月中～10月末日
知識確認コース	19科目	16,500 (テキスト代含)	2月中～8月末日	2月中～10月末日
継続研修				
認定取得コース	26科目	15,000	6月1日～10月末日	6月1日～11月末日
認定更新コース	11科目	無料 (2018年度以前認定者 で、更新申請をしていない 者は5,000)	6月1日～10月末日	6月1日～11月末日
アップデート (未定)				
がんゲノム医療	4科目	無料	—	—

# 2021年度 相談員研修スケジュール②

集合研修	定員	日程	費用(税抜)	申込期間	受講日	集合/オンライン
基礎研修(3)						
国指定コース	27	2日間	無料	4月上旬～ 中旬	※別スライド	※別スライド (ハイブリッド型)
非拠点コース		2日間	30,000			
指導者研修						
指導者	50	4日間	30,000	4月上旬～ 中旬	前期：6/29(火)・30(水) 後期：11/4(木)・5(金)	オンライン
指導者スキルアップ研修						
情報から始まる がん相談支援	30	2日間	20,000	7月上旬～ 中旬	11/4(木)・5(金)	オンライン
情報支援・ 相談対応モニタ リング	計10	1日間	10,000	未定	2回程度	オンライン

# オンライン研修であがった問題

- 1施設で2名以上参加する場合に、
  - パソコン・ヘッドセットマイクを受講生分準備することができない
  - 2名が同室で参加し、グループワークで他のグループワークの声が漏れる
- ネットワークが不安定な環境で、何度も遮断される
- 職場の規定上、オンライン会議システムのアプリをインストールできない、等

各都道府県のオンライン研修の  
環境整備に  
ご協力お願いします

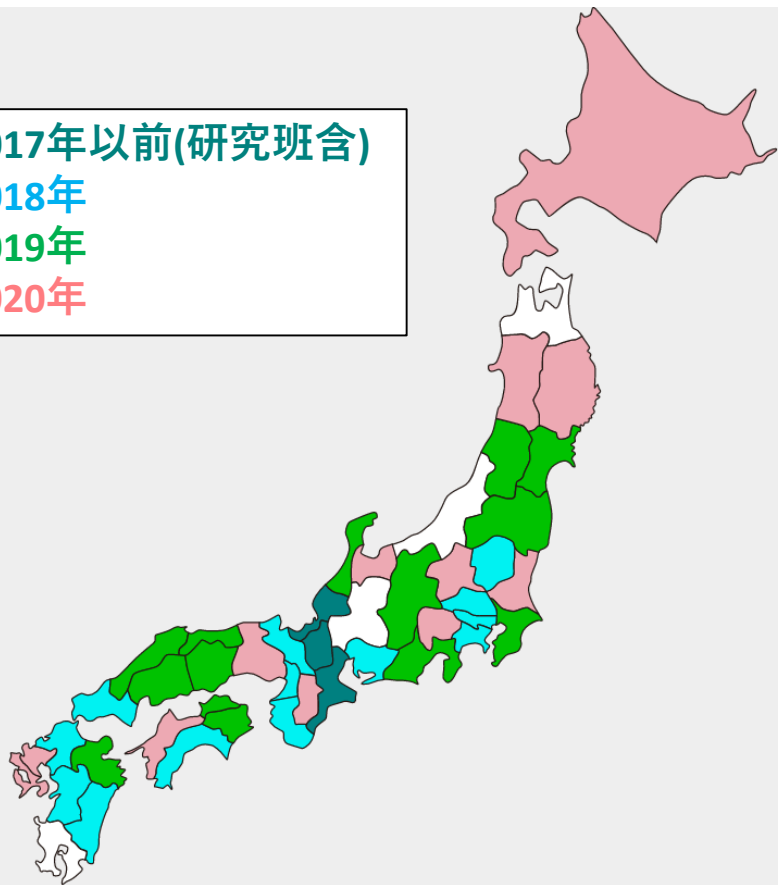
がん対策情報センター  
では、来年度以降も  
zoomにてオンライン研  
修を実施する予定です

# 2020年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修 講師派遣開催予定

研修日時	実施状況	都道府県	担当施設	研修予定会場
2020年9月12日(土)	開催済	兵庫県	兵庫県立がんセンター	オンライン
2020年10月10日(土)	開催済	山梨県	山梨県立中央病院	オンライン
2020年10月10日(土)	開催済	佐賀県・長崎県	佐賀大学医学部附属病院 長崎大学病院	オンライン
2020年11月14日(土)	開催済	愛媛県	四国がんセンター	オンライン
2020年12月12日(土)		群馬県	群馬大学医学部附属病院	オンライン
2021年1月23日(土)		奈良県	奈良県立医科大学附属病院	ミグランス 橿原市役所分庁舎 コンベンションルーム
2021年2月13日(土)		岩手県	岩手医科大学附属病院	オンライン
2021年2月14日(日)		茨城県	茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター	オンライン
2021年2月20日(土)		秋田県	秋田大学医学部附属病院	オンライン
2021年3月12日(金)		北海道	北海道がんセンター	オンライン
2021年3月13日(土)		富山県	富山赤十字病院	オンライン
2020年度中止		岐阜県	岐阜大学医学部附属病院	岐阜大学医学部附属病院

# 2018～2020年度 「相談対応の質保証を学ぶ」研修 講師派遣事業 実施状況

2017年以前(研究班含)  
2018年  
2019年  
2020年



2018年度	14都道府県	およそ361名
2019年度	14都道府県	およそ371名
2020年度	11都道府県	—

\* 受講生：Ⅲ群報告より集計（報告未実施の都道府県除く）

## 2回目以降自主開催実施県

栃木県、福井県、滋賀県、福岡県

\* Ⅲ群申請より集計

# 2回目以降の 「相談対応の質保証を学ぶ」研修 自主開催について

各都道府県での2回目以降の開催を、大歓迎します！

## 【開催要件】

- がん対策情報センターより既に講師派遣を行った都道府県である
- 講師は原則として下記のすべてを満たす者とする
  - 指導者研修修了者である
  - がん対策情報センターが講師のQA研修の受講歴がある、もしくは上記研修で副講師としての経験がある
  - QA研修のファシリテーターをおこなった経験がある
  - 認定がん専門員を取得している
  - ただし、国立がん研究センターがん対策情報センターが承認した場合は、上記の要件全てを満たさなくても講師を担える
- QA研修の受講歴があるファシリテーターがグループ数の過半数を超える

## 【その他】

- 事例教材やスライド、その他資料の提供が可能です

不明点や疑問点は、NCCまでお問い合わせください。

# 認定事業について

**国民が安心して利用できるがん相談支援センターや相談員の環境整備を目的として、以下の認定事業を実施しています。**

## ■「認定がん専門相談員」認定事業

整備指針に定められている相談員の研修受講要件を満たしているだけでなく、

**国際がん情報サービスグループ（ICISG）が示す“Core Values”をはじめとした基本姿勢を遵守しているか、相談対応に必要とされる知識や情報を更新するため継続的に学習し自己研鑽に励んでいるか**等について、一定基準を満たした相談員を「国立がん研究センター認定がん専門相談員」として認定します。

## ■「認定がん相談支援センター」認定事業

整備指針に定められているがん相談支援センターの要件を満たしているだけでなく、

**提供する支援サービスの質を維持・向上させていくための体制整備に努めているか、相談対応を検証し評価・改善活動に取り組んでいるか**等について、

一定基準を満たした施設を「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」として認定します。



# 「認定がん相談支援センター」認定事業

当センターが定める基準にそって、**情報提供・相談支援体制の整備に積極的に取り組んでいる施設を**「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」として認定します。



認定がん相談支援センター

## 【認定施設に求められる取り組みの一例】

### ・ 相談部門のマニュアル整備

どの相談員が対応しても一定の質の支援が提供できるようにするため、相談部門のマニュアルを整備すること。

### ・ 部門内モニタリング

実際の相談対応を録音できる環境を整備し、その音声データを用いて相談対応の評価・改善策の検討を相談部門内で定期的に行うこと。

### ・ 相談対応に活用する情報源の評価

相談対応に活用する情報の質を担保するため、相談部門で定めた評価基準に基づいて、活用する情報源（書籍やウェブサイト）を定期的に評価、見直しすること。

## 【認定施設向けサポート】

### ・ コールモニタリングの実施

当センターによる模擬電話相談の実施、フィードバック

### ・ 認定施設向け研修、ワークショップの実施

全国のがん相談支援センターの中でも、より一層高い水準の「情報支援」が提供できるよう、がん情報サービスや診療ガイドライン（一般向け、医師向け）の活用の仕方をお伝え

### ・ メーリングリストでの情報共有

がん情報サービスサポートセンターで収集・整備した情報等について、認定施設MLで共有

## 認定がん専門相談員

申請受付期間：

2020年11月30日（月）～12月11日（金）



近日受付開始

## 認定がん相談支援センター

申請受付期間（予定）：

2021年4月5日（月）～5月31日（月）



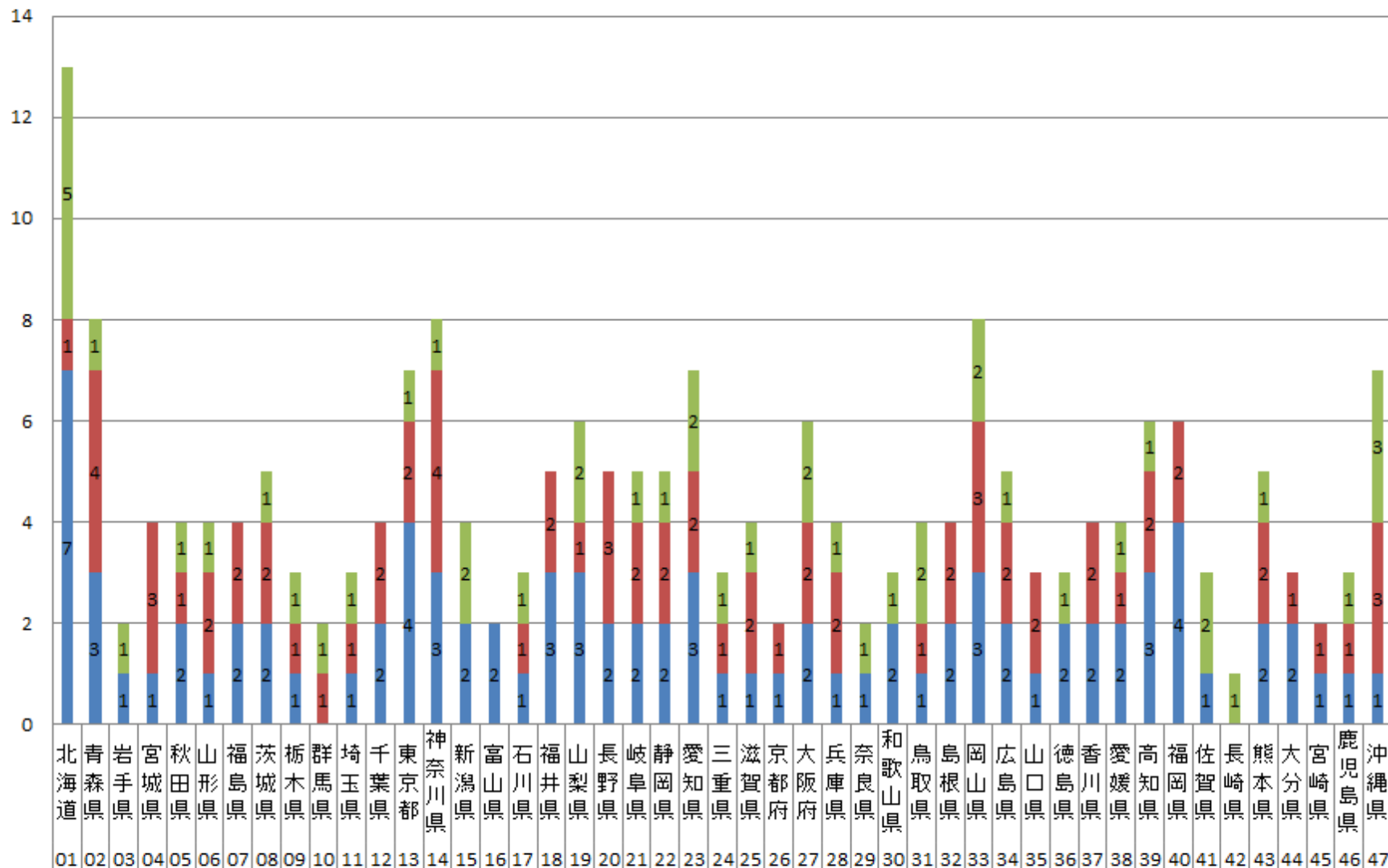
認定がん相談支援センター

詳細は募集要項をご参照ください。

国立がん研究センター＞がん対策情報センター＞プロジェクト＞

<https://www.ncc.go.jp/jp/cis/divisions/info/project/certification/index.html>

# 都道府県別III群研修 開催回数



■ 2020	5	1	1		1	1		1	1	1		1	1	2			1		2	1	1	2	1	1		2	1	1		1	1		2	1	1		1	1	3						
■ 2019	1	4		3	1	2	2	2	1	1	1	2	2	4			1	2	1	3	2	2	2	1	2	1	2	2		1	2	2			2	1	2	2	2	3					
■ 2018	7	3	1	1	2	1	2	2		1	2	4	3	2	2	1	3	3	2	2	2	2	3	1	1	1	2	1	1	2	2	3	2	1	2	2	3	4	1		2	2	1	1	1

# 都道府県主催研修（Ⅲ群研修）のオンライン開催 に関する認定がん専門相談員認定事業での 取り扱いについて

- 以下の取り扱いとします。
  - － オンラインでの研修を行った場合でも、従来から定められている要件を満たすものであれば、Ⅲ群の研修として認める。
  - － 但し、オンライン研修の開催にあたっては、集合研修と同様の研修の質を維持出来るように努めること。
  - － また、2時間以上の連続した実施が困難で、1つの研修を2時間未満に区切って別日に開催した場合でも、内容が連続しており、1つの研修を構成するものとなっていれば1単位とみなす。
- 詳細は、以下URLよりご確認ください。

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/lock/IIIgtrk03.pdf](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/IIIgtrk03.pdf)

# ！Ⅲ群研修の報告について！

- オンライン研修も各地で実施されるようになってまいりました
- Ⅲ群研修の報告について、今までは可能な範囲で必須としていましたが、研修の質の担保の観点から、2020年より必須とさせていただきます
- **2020年1月以降の開催分**で、研修報告をされていない都道府県がございましたら、以下より開催報告をお願いします
- また、通常の報告期限は、研修開催日が含まれる月の翌々月の末日です

2020年1～9月開催で報告未実施都道府県の提出期限：  
2020年12月15日(火) 23:59

Ⅲ群報告の  
詳細はこちら

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/lock/IIIgtrk.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/IIIgtrk.html)

# 都道府県主催Ⅲ群研修 事前情報収集ご協力のお願い

- 2021年3月頃、昨年度と同様に、2021年度の研修開催状況について、お伺いします
- 暫定内容で大丈夫ですので、回答へのご協力お願いします

## 2020年度相談員研修一覧(都道府県別)

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/support/todofuken2020.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/support/todofuken2020.html)

\* 修正や削除等の更新は、月1回です

\* 内容が決定しましたら、更新申請をお願いします（申請方法は、上記のページに）

# 拠点病院がん相談支援センターメーリングリスト について

MLメンバー登録の申請方法  
が変わります。

【これまで】メールで申請



【今後】WEBサイトにて申請

がん診療連携拠点病院がん相談支援センター メーリングリスト(ML) 登録シート

(新規・変更・修正用)

必要事項をご入力の上、送信ボタンを押してください。  
\*は入力必須項目です。

- 1) e-mailアドレスは5つまで登録できます。
- 2) e-mailアドレスは貴施設発番のe-mailアドレスを登録してください。
- 3) e-mailアドレスには貴施設発番のグループアドレスを登録することができます。
- 4) e-mailアドレスにフリーメールアドレスを登録することはできません。

●基本情報

都道府県 \*

施設名 \*

詳細は、以下のページをご覧ください。(ID,パスワードが必要です)

がん情報サービス医療関係者向け > がん相談支援 > 国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ  
> がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストのご案内

[https://ganjoho.jp/med\\_pro/consultation/lock/kyotenml.html](https://ganjoho.jp/med_pro/consultation/lock/kyotenml.html)

# 地域相談支援フォーラムへの 国立がん研究センターの協力依頼について

**！オンライン開催に関しても協力可能です！**

## ■ 協力可能事項

- **がん対策情報センターとしての名義後援**

- **挨拶または講評**

地域相談支援フォーラム関連の講師依頼はこちらからお願いいたします。

- **募集要項のがん情報サービスへの掲載**

テンプレートは集合開催用とオンライン開催用どちらにも対応しています。

- **(必要に応じて) 申込フォームの提供**

申し込みフォームの受領確認通知でミーティングURLや参加登録方法のお伝えが可能です。

- **情報提供・相談支援部会終了後の会議室の提供**

部会がオンライン開催の場合はブレイクアウトルームの案内を検討します。

- **部会委員などへの連絡の仲介**





## がん相談支援

2020年05  
2020年05  
がん相談支援センターの円滑な運営をサポートするための情報やツールを提供しています。

- がん相談支援センター相談員研修の概要
- 地域相談支援フォーラム
- がん相談支援センター相談員サポート
- 国指定がん診療連携拠点病院サポートページ

### ■がん相談支援センター相談員研修の概要

研修の詳細については、「研修・セミナー」をご覧ください。

- ・国立がん研究センターにおけるがん相談支援センター相談員の育成に関する教育・研修プログラム提供方針(PDF:340KB)
- ・令和2年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修講師派遣依頼の募集の開催予定について UPDATE!
- ・2020年度「相談対応の質保証を学ぶ」研修講師派遣依頼の募集
- ・地域開催の研修企画コンサルテーション(随時)のご案内
- ・研究班によるオンラインQA研修の試行と研究協力者の募集について

下にスクロール

### ■国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ

旧「都道府県がん診療連携拠点病院向け」、「がん相談支援センター相談員指導者研修修了者向け」、「都道府県がん相談員研修連絡担当者向け」サポートページを統合いたしました。

(閲覧には、都道府県がん診療連携拠点病院専用のID、パスワードが必要です。ID、パスワードは都道府県がん診療連携拠点病院メーリングリストにてご案内をいたしましたのでご確認ください。不明な場合には「がん情報サービス事務局」までお問い合わせください。)

**【ログイン】**

【厚生労働大臣の指定を受けたがん診療連携拠点病院・がん診療病院の方へ】

- ・がん相談支援センター共通ロゴについて(ロゴ、紹介カード、相談員バッジ)
- ・がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストのご案内
- ・がん相談支援センターPR資料の貸し出しについて
- ・「がん相談支援センター」紹介ラジオドラマCMについて

## 国指定がん診療連携拠点病院等サポートページ

このページは、厚生労働大臣から指定を受けたがん診療連携拠点病院のがん専門相談員の方を対象とした情報を掲載しています。

- 【厚生労働大臣の指定を受けたがん診療連携拠点病院・がん診療病院の方へ】
  - ・がん相談支援センター共通ロゴについて(ロゴ、紹介カード、相談員バッジ)
  - ・がん診療連携拠点病院がん相談支援センターメーリングリストのご案内
  - ・がん相談支援センターPR資料の貸し出し/がん相談支援センターイメージングの利用について
  - ・「がん相談支援センター」紹介ラジオドラマCMについて
  - ・病院にある学校一覧
  - ・がん診療連携拠点病院向け災害時情報
- 【都道府県がん診療連携拠点病院の方へ】
  - ・都道府県がん診療連携拠点病院がん相談支援センターへの国立がん研究センターがん対策情報センターの協力依頼について
  - ・施設別がん登録件数検索システムについて
  - ・2020年度がん相談支援における「研修」ワークショップ(動画配信)
  - ・Ⅲ群登録申請のご案内
  - ・都道府県がん相談員研修連絡担当者向けメーリングリストのご案内
  - ・地域相談支援フォーラムへの国立がん研究センターの協力依頼について
- 【指導者研修修了者の方へ】
  - ・研修素材についてのご案内
  - ・講義/パネルディスカッション(スライド)について
- 【相談員用情報】
  - ・がん情報サービス上の古い「療養」について
  - ・療養に関する情報の探し方

## 地域相談支援フォーラムへの国立がん研究センターがん対策情報センターの協力依頼について

更新・確認日: 2019年12月27日 【履歴】

- 地域相談支援フォーラムへの協力について
- 協力可能事項
- お問い合わせ

### ■地域相談支援フォーラムへの協力について

がん相談支援センター地域相談支援フォーラムは、「がん診療連携拠点病院などの整備について」(2018年(平成30年)7月31日付け健発0731第1号)の通知内容をふまえ、「より地域のニーズに合致し、また系統的・継続的な研修の実施やより効果的な広報・周知活動を支援するため」に展開している広域研修です。また、国立がん研究センター「認定がん専門相談員」認定事業におけるⅢ群(国立がん研究センターがん対策情報センター、都道府県、または都道府県がん診療連携協議会、およびそれに準じる相談支援に関する部会などの機関)によって、がん専門相談員のための研修と位置付けられた研修に該当します。なお、がん診療連携拠点病院の指定要件において、修了者の配置が求められている研修ではありません。

2012年度(平成24年度)より、国立がん研究センターがん対策情報センターの主催により開始し、2014年度(平成26年度)から2018年度(平成30年度)には企画公募型による開催支援を行ってまいりました。並行して2016年度(平成28年度)からは地域主体開催型による開催が行われるようになり、2019年度(平成31年度)以降はすべてが地域主体開催型に移行します。

2019年度(平成31年度)以降は、この地域相談支援フォーラム(「都道府県がん診療連携協議会」あるいはその傘下の「相談支援専門部会」による主催で、かつ、複数都道府県の協力により運営される研修会)の枠組みで行われる会に対しては、がん対策情報センターから以下の協力が可能です。

### ■協力可能事項

下記をご確認の上、申請フォームよりご連絡ください。各書類のひな型はそれぞれダウンロードして必要事項をご記入の上、申請フォームの指定箇所にアップロードしてください。

# 本日の内容（つづき）

4. 2021年度の相談員研修の開催・実施方法について
5. 患者体験調査からの報告
6. 情報コンテンツ作成・提供・活用、査読に関する協力依頼
7. 国立がん研究センター認定事業、他について
- 8. その他**
  - オブザーバーからのコメント
  - 連絡事項
9. 閉会のあいさつ

# 本日の内容（つづき）

4. 2021年度の相談員研修の開催・実施方法について
5. 患者体験調査からの報告
6. 情報コンテンツ作成・提供・活用、査読に関する協力依頼
7. 国立がん研究センター認定事業、他について
- 8. その他**
  - オブザーバーからのコメント
  - 連絡事項
9. 閉会のあいさつ

# 連絡事項

## ■ 第16回情報提供・相談支援部会

日時：**2021年5月27日（木） 13:00～16:00**

**（予定）**

オンライン開催を予定していますが、詳細決まり次第ご連絡いたします。

情報提供・相談支援部会事務局

■ FAX : 03-3547-8577

■ mail: [joho\\_sodan\\_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp](mailto:joho_sodan_jimukyoku@ml.res.ncc.go.jp)

# サイコオンコロジー学会 がんサポートプログラムについて

「がんサポートプログラムの企画・運営者のための研修会(仮称)」

**企画運営：**

短期サポートグループWG(グループ長：大阪大学大学院 平井啓先生)

**日程：**2021年2月11日(木・祝)

**時間：**10：00～17：00

**会場：**全面WEB開催

**研修の目的・内容：**

施設内でのサポートグループ開催の必要性、ピアサポーターとの協同の在り方などについて学ぶ。

**研修の対象：**

(主に)がん診療連携拠点病院の相談支援センター職員、医師、看護師、薬剤師、心理士、事務。(拠点病院のがんサロンの運営に近い立場の方、興味のある方)

# (つづき)

時間	プログラム
	事前評価の確認
10:00 ~ 12:00	<b>講義編</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 背景、サポートグループとは、ピアサポートとは？</li> <li>• 患者のニーズを知る</li> <li>• ファシリテーションの基本</li> <li>• グループにおける相互作用</li> <li>• ピアサポーターとの連携</li> </ul>
	昼休憩
13:00 ~ 16:30	<b>実践編</b> (Zoomブレイクアウトセッションを利用。30分×3回のロールプレイ) <ul style="list-style-type: none"> <li>• グループを始める</li> <li>• ロールプレイ ファシリテーター体験</li> <li>• グループを終わる</li> </ul>
16:30 ~ 17:00	参加者同士のノウハウ共有
	ポストテスト

# がん相談支援センターと図書館の連携ワークショップ アーカイブ公開中

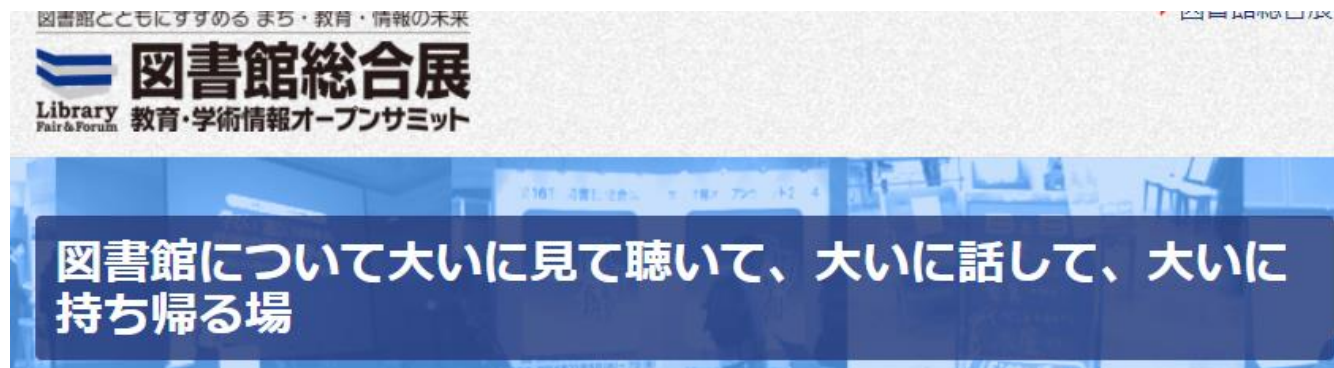
2020年10月9日（金）開催

近畿地区 図書館＆がん相談支援センター連携ワークショップ

「いつでも、どこでも、だれでもが、

がんの情報を得られる地域づくりの第一歩」(in 大阪)

<https://2020.libraryfair.jp/>



# 本日の内容（つづき）

4. 2021年度の相談員研修の開催・実施方法について
5. 患者体験調査からの報告
6. 情報コンテンツ作成・提供・活用、査読に関する協力依頼
7. 国立がん研究センター認定事業、他について
8. その他
  - オブザーバーからのコメント
  - 連絡事項
9. 閉会のあいさつ

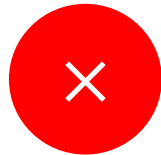


# 第15回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 情報提供・相談支援部会

2020年11月27日(金) 13:00～15:00

ご参加いただきありがとうございました。

右下の



よりご退出ください。